公益社団法人　五所川原青年会議所
２月通常総会　次第

日時　平成２９年2月２０日（月）１９：００
場所　ホテルサンルート五所川原　二階　萬葉の間

１．開会セレモニー
《２月通常総会》
２．開会宣言
３．国家斉唱
４．「ＪＣソング」斉唱
５．「ＪＣＩクリード」唱和
６．「ＪＣＩ ＭＩＳＳＩＯＮ」並びに「ＪＣＩ Ｖｉｓｉｏｎ」唱和
７．ＪＣ宣言文朗読並びに綱領唱和
８．東北ＪＣ宣言文唱和
９．理事長挨拶
１０．議長就任
１１．定足数の確認
１２．議事録作成人並びに署名人の選出
１３．監査報告
１４．議案
　第１号議案 ２０１６年度事業報告（案）承認の件
　第２号事案 ２０１６年度収支決算（案）承認の件
　第３号事案 ２０１６年度特定資産まつり事業準備資金繰り入れ（案）承認の件
　第４号議案 ２０１６年度特定資産事業実施積立金繰入れ（案）承認の件
　第５号議案 ２０１６年度財産目録（案）承認の件
１５．監事講評
１６．閉会宣言
１７．公開臨時理事会
１８．閉会セレモニー

基　本　資　料

目　　次

１．２０１７年度理事長所信 …… ２
２．２０１７年度基本計画 …… ５
３．青年会議所（ＪＣ）とは …… ６
４．２０１７年度理事及び監事 …… １０
５．２０１７年度組織図 …… １１
６．２０１７年度出向者一覧 …… １２
７．２０１７年度委員会事業方針・事業計画 …… １３
８．２０１７年度年間スケジュール表 …… ２６
９．２０１７年度収支予算書 …… ２７
１０．２０１６年度をかえりみて …… ３４
１１．２０１６年度収支決算 …… ５５
１２．２０１６年度庶務報告 …… ６９
１３．事務局備品目録 …… ７０
１４．２０１６年度行事一覧 …… ７１
１５．新入会員のために …… ７６

公益社団法人　五所川原青年会議所

２０１７年度　理事長　宮　崎　敬　也

２０１７年度　ＬＯＭ　スローガン

挑戦

公益社団法人五所川原青年会議所２０１７年度理事長所信

公益社団法人　五所川原青年会議所
理事長　宮　崎　敬　也

【はじめに】

昭和３９年、第二次大戦後の国土の荒廃と混乱から人々が復興へと向かい、日本が高度成長期へと差し掛かる時に、「明るい豊かな社会」の実現を目的として五所川原青年会議所は創立されました。創始から今日に至るまで､先輩方と共に時代の移り変わりの中で地域的な課題や時事的な出来事に焦点を当て、まちや人の発展の為に必要とされる本質を汲み取り、市民意識の変革運動を展開しながら、明るく豊かなまちの実現に向けて挑戦して参りました。責任世代である我々はこの創始の精神を受け継ぎ挑戦し、地域の未来を切り拓かなければならないのです。

【公益社団法人の継続に向けて】

五所川原青年会議所は、国の公益法人制度改革により公益社団法人へと２０１２年度に移行し、既に６年目を数えます。現在において､多種多様な民間団体が地域の活性化を図るべく活動を行っている中で、この公益社団法人格は「民間が担う公共性」の高さを表す指針の一つであり、今後もまちづくり・ひとづくり運動を推し進めていくためにも、当会は公益社団法人としての責務を果たしていかなければなりません。

その為には、今後も行政との連携を図りながら明瞭な財務管理と法制管理の両立を堅持しつつ、総務委員会を中心とした総会の企画運営を行うと共に、定例会での設営を確実に取り仕切り、当会の運動発信が十分に果たせるよう取り組んで参ります。公益社団法人としての責務を果たし、広く地域からの信頼を得られることにより、我々の運動をより推し進めて参ります。

【青少年の育成に向けて】

子ども達の可能性は無限大です。明日の地域を支えていくのは､今この時を生きている子ども達であり、彼らの可能性を伸ばしていくことは、すなわち地域の担い手の成長へと繋がり、地域がより良くなることへと直結します。子ども達が自分自身の可能性を信じて挑戦し、未来を切り拓けるよう、我々は次代を担う子ども達が成長できる機会を創出していかなければなりません。その為には、子ども達に多様な事業を経験していただき、体験と学びにより自分自身と

向き合いながら、他者と心を通わせると共に、豊かな感受性と社会性を育むことで心身の成長を促して参ります。子ども達が心身共に成長し、自らの未来を切り拓ける人材となることで、明るい豊かな地域を創り上げると確信し、行動して参ります。

【伝統行事の継承に向けて】

「天下泰平」「国家安泰」「五穀豊穣」「悪疫退散」の祈りを込めて毎年開催され､本年で４５回目を迎え、いよいよ半世紀の節目が近づきつつある伝統行事「奥津軽虫と火まつり」は、先人達が自然との苦闘の歴史から生まれた「地域の幸せ」を願うまつりです。現代のように機械や技術の無い時代に、互いに支

え合いながら不撓不屈の精神で困難を乗り越え､地域の発展の礎を築かれた先人達に想いを馳せながら、これからも継承と発展ができるよう、関係諸団体との連携を密にしつつ、運動を展開しなければなりません。
その為には、関係諸団体との意識共有と連携を図りながら、近年に引き続き地域の次世代の方々に「奥津軽虫と火まつり」への参画を通して、まつりの意義を学ぶと共に地域へ広く伝えて参ります。半世紀を見据えて運動を展開していくことにより、この歴史ある伝統行事を継承・発展して参ります。

【前向きな社会参画とまちづくりに向けて】
国により掲げられた地方創生は、地方の停滞を払拭させ、日本全体の活力を上げることを目的とした政策でありますが、実際に自分たちの住み暮らす地域をより良い形に変えていくことができるのは、その地域に住み暮らす「人」であり､人々による社会参画を原動力として地域活性をしなければなりません。
その為には、２０１２年度から五所川原市との協定により実施されている五所川原市民討議会を開催することで、市民がまちづくりに携われる機会を創出するとともに、地域の持つ特色や課題について考え行動できる、前向きな社会参画意識を形成いたします。明るい豊かな地域の創造実現に向けて、単一の個人や組織のみならず､｢市民｣｢行政｣｢当会｣による連携と協働を図りながら､運動を展開して参ります。

【会員拡大と会員相互の協調に向けて】
青年会議所運動が地域に伝わり広がっていく力は、それに携わる会員の人数や会員相互の協調性に左右され、両者が高ければ高いほどその運動の力は比例し、目に見えて発揮されます。我々の運動がより大きな力で地域に伝播していけるよう、会全体が会員の拡大と交流推進について意識を共有し、取り組まなければなりません。その為には担当委員会が中心となり、会員獲得に向けた情報収集を行うと共に、会全体
での拡大へ取り組んで参ります。更には、会員相互の各種交流を図ることで「明るい豊かな社会」の実現を見据えた運動展開を共有し、行動できる組織づくりに働きかけます。会員委員会が会員拡大と会員相互の交流を推進を力強く推進していくことにより、「明るい豊かな社会」の実現に向けて着実に歩んで参ります。

【会員資質の向上に向けて】
我々は青年経済人として、また、「明るい豊かな社会」の実現を目的に掲げる組織の会員として、個々の資質を向上させることは必要不可欠です。それ故にこそ、２０歳から４０歳までの限られた期間において、青年会議所活動における様々な場面を学びの場と捉え、研鑽を積みながら経験を重ねて成長していかなければなりません。その為には、青年経済人としてのみならず、青年会議所会員としての視野も含めた多面的な視野での学びの機会を設け、自己の成長へ繋げると共に、資質向上を通じて得たものを会社や家族､地域へと還元できる人材の育成を図ります。会員一人ひとりの持つ力を高めることにより、当会のみではなく、ひいては地域が活性化するものと確信し、行動して参ります。

【結びに】

私は２００４年に当時の社団法人五所川原青年会議所に入会し、先輩諸兄や仲間達、関係諸団体等、多くの方々との出会いと青年会議所運動を通じて、現在に至るまでに沢山の経験と学びを得ることができました。今にして振り返ると、未熟であった私にご指導や激励を授けながら共に活動をしてくださった先輩諸兄や仲間達がいたことは、私の心の財産となっています。

当会議所創始からの先輩諸兄も、互いに助け合いながら「明るい豊かな社会」の実現に向けた想いと教えを連綿と受け継いできたからこそ、今の私が居るのだと感じた時、私の役割は次代を担う人々や青年会議所の仲間達へバトンを渡すことなのだと気づきました。日々変遷する社会情勢は、先の見えない混沌としたものかも知れません。しかし、我々がそれぞれの心に抱いている地域への想いを持ち寄り、運動という形にして発信することにより必ず地域の未来は切り拓けると確信しております。

基　本　計　画

【 基 本 理 念 】

地域への想いを持ち寄り、形にしよう

地域の未来を切り拓くために

【 基 本 方 針 】

1、公益社団法人の継続と責務の履行

2、自分自身の未来を切り拓く青少年の育成

3、半世紀を見据えた「奥津軽虫と火まつり」の開催

4、前向きな社会参画意識によるまちづくり運動

5、会員拡大と会員相互交流の推進

6、多面的な学びを通じた会員の資質向上

【 LOM スローガン 】

挑戦

青年会議所（ＪＣ）とは

◇理念と目的

青年は理想に燃え、未来への期待を常に強く持っています。希望に満ちた明るい豊かな社会、正義が行われる理想の社会の実現を心から熱望するために、青年は次代の担い手として大きな責任を自覚し、新しい世界のための推進力にならなければならないと考えます。

青年のこの夢を実現するため、同じ理想と使命感を持つ若い世代の人々を広く共通の広場に集め、友情を深めつつ、強く影響し合い、刺激しあって、“若さ”がもつ未来への無限の可能性を自分たちの手で効果的に描き出し、“明るい社会”を目指して、青年の情熱から生まれる果敢な行動を結集すべく、組織された団体が青年会議所（ＪＣ － Junior Chamber）です。

「われわれ ＪＡＹＣＥＥ（青年会議所会員）は、社会的、国家的、国際的な責任を自覚し、志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう」との綱領は青年会議所の決意、行動理念と目標を明確に表現しています。

◇特　質

青年会議所を他のすべての団体から区別する最大の特質は、会員の“年齢制限制”にあります。会員はいかなる人種、国籍、性別、職業、宗教であってもかまいませんが、年齢満２０歳から４０歳までであることを要し、“品格ある青年”でなければなりません。したがっていかに長時間にわたり、有能で活動的な会員であっても、満４０歳に達したら退会しなければなりません。この素晴らしい年齢制限のゆえに、青年会議所は絶対に若さを失わず、常に希望に溢れ、未来に向かった前進を続ける団体として活動することができるのです。

青年会議所は世襲経営者のサロンクラブではありませんし、単に社会奉仕を行う団体でもありません。青年会議所は未来を目指し、よりよき明日をめざしてわれわれの住む地域社会・国家・全世界のために、われわれが今日の犠牲を払うことを厭わず、常に進歩への挑戦を行う、理想と具体的総合的な施策をもった青年指導者の運動です。

◇組　織

会員は自分が住んでいる都市にある青年会議所に所属しています。われわれが会員であることは市民としての自発的な自由な意志によるのです。それゆえこの運動の単位は、あくまで各地青年会議所の日常の活動にあります。

１９４９年９月、東京に始まった日本の青年会議所運動は、６０年の歳月を経て、戦後日本の民間運動の白眉といわれるほどの拡大発展をとげました。現在、日本の隅々にわたり、７０４都市で活動を続け、会員約４万名を擁する、青年運動最大の団体となりました。全国７０４の青年会議所はそれぞれ集まって、４７ブロック協議会を構成し、さらにそれが日本を１０地区に分ける地区協議会に集められ、それらを総合調整する機関として日本青年会議所があります。日本青年会議所は国際青年会議所（ＪＣＩ － JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL）に加盟し、国際的なＪＣ運動の一翼をになって活動していますが、世界中では約１７万人の会員が同じ理念のもとに国際的な同志感をもって運動を続けています。

◇事業目標“社会と人間の開発”

創立以来の“個人の修練、社会への奉仕、世界との友情”の青年会議所の三信条は、われわれの運動６０年の展開の中で、年を追って具体化され、青年会議所運動とは要するに、“指導力開発と社会開発”であるとの事業スローガンに固まってきました。われわれ会員は市民社会の一員として市民と共通の生活基盤に立ったものの考え方見方を出発点とし、市民の共感を求め、住みよい明るい豊かなまちづくりに向かって努力するとともに、青年会議所の日常活動の場を通じ、われわれ個々人をよりよく開発することが青年会議所運動にほかならないと考えます。

青年会議所の“指導力開発”とは民主的な集団指導力あるいは集団運営能力の研究と実践であるといわれます。まず会員個人がすぐれた市民、職業人であるために自ら厳しく訓練し、さらに市民社会の中にあって、市民を目標に向かつて一致協力するように働きかけながら市民とともに進む、その全過程が青年会議所のいう指導力開発です。

指導力開発を推進するもっとも有効な手段として、青年会議所は“社会開発計画”事業を中心とする運動をもっています。一市民でもある会員が住むまちの明るい豊かな明日のために、それぞれまちの問題を市民の中から掘りおこし、市民とともにその解決をはかるという方法です。

青年会議所運動は自由な自発的な意志より加入した会員の起こす運動であるからには、われわれのまちの運動、市民運動の中心でなければなりませんし、市民にその意志を認められなければなりません。

青年会議所の目標は明るい豊かな社会の創造であり、その新しい社会をリードするにふさわしい人を数多くつくることです。青年会議所とその運動は決して完成されたものではなく、社会の進歩とともに、さらに発展していくと思われます。

青年会議所は時代とともに新しい呼吸を続け、次々と新しい青年がこの団体を背負っていきます。

青年会議所は常に英知と勇気と情熱を持った青年を求め、その門戸を大きく開いています。

２，０００字解説文より

国 際 年 会 議 所
Jaycee International, Inc.（ＪＣＩ）

ＪＣＩは青年の世界でも最も強固で、大きな団体です。「すべての国、民族、宗教を含めた青年の集まり」それがＪＣＩのモットーです。
１９７７年１月末日現在の構成は、１００ＮＯＭ（National Organization Members）、約８，６００ＬＯＭ（Local Organization Members）があり、全会員数は約３２万名です。

①個人の能力の開発
②青年の協力による社会開発（精神面、福祉面）
③より深い世界的相互理解の推進

これらの主目的に沿ったプログラムを調査－研究－計画－実行－評価の活動過程を通じて有益な指導力を取得し、また人間的向上を図る機会を活動の主体である青年が追求すると同時に世界に対して種々の働きかけて行うことがＪＣＩの目的です。

ＪＣＩ（Junior Chamber International）運動の始まりは８５年前の１９１５年にアメリカの一都市セントルイスに住む青年達が「青年も、事業あるいは市民生活の諸問題に関与すべきである。」との主旨のもとに United States Junior Chamber of commerce を設立しました。その後、清廉な言動が一都市から全米へ、更に世界各国に発生を促すことになり、続々青年団体が設立されました。

そして、１９４６年第一回国際青年会議所の会議がパナマで聞かれ、国際的活動が開始されました。ＪＣＩは７５カ国（ＮＯＭ）、１２，０００チャプター（ＬＯＭ）のＪＣが加入しており、会員数（Ｊａｙｃｅｅ）は約３２０，０００人に達し、同一目標をめざしております。日本は１９５１年、第６回会議で初めてＪＣＩへの承認を受けてから、現在においてはアメリカに次いでＪａｙｃｅｅの最も多い国へと拡大しました。ＪＣＩは結成以来、毎年１回加入国のいずれかでＪＣＩの最高議決機関である世界会議が開催されており、日本に於いても１９５７年第１２回会議が東京で、１９６６年には京都で第２１回、１９８０年には大阪で第３５回、１９８６年には名古屋で第４１回、２０００年には札幌で第５５回世界会議がそれぞれ開催されました。皇太子殿下の御臨席を始め、各国の著名士が多数参加のもとに、世界各国からの代表団を日本に迎え、ＪＣＩ世界会議の歴史の輝かしい多大な成呆を残しました。また、ＪＣＩは世界会議の他に６地域に分けて、各地域ごとに毎年一団地域会議を開催しており、１９５２年東京で第２回アジア地域会議（１９６２年よりＪＣＩの定款改正でＪＣＩコンファレンスと改称）が聞かれました。日本はＪＣＩ加入以来、毎年世界会議に多数の代表を送り、ＪＣＩ発展に寄与している。ＪＣＩ内部においても高く評価されており、日本から初めて、１９７０年度ＪＣＩ会頭に前田博君が、また、１９８１年度には長尾源一君が選ばれました。同じ目的を達成するため世界各国のＪＣの結束がＪＣ運動を世界的規模でとらえ、ＪＣ運動の発展を図ろうとするものであります。

日本青年会議所（日本ＪＣ）

第二次世界大戦後、日本の社会は精神的にも物質的にも極度に荒廃した状態であった。現状を一日も早く収拾し、新しい秩序を打ち立てなければならないという声が次第に高まって来ました。この時、経済界に活躍している青年達の聞に一つのグループ。を作ろうという機運が生じました。そのグループの目的は、青年がお互いに切瑳琢磨し、今後の日本の各界における指導者としての基盤を確立し、青年らしい情熱を燃やして“より良い社会”を着々と実現してゆこうというものでありました。

このような趣旨のもとに集まった青年の手によって東京青年会議所（その後商工会議所法の制定により、青年会議所と改称）が１９４９年９月３日に設立された。これが日本における青年会議所運動の先駆であります。

このような理想主義的な運動は日本各地の指導的青年層に深い共感を与え、大阪、名古屋、前橋、広島､岡山等に続々と青年会議所が誕生しました。これらＪＣ相互の連絡のため「全国青年会議所懇談会」が１９５０年に開催され、次いで翌１９５１年２月９日に７都市のＪＣを会員とし、全国的な統合体として社団法人日本青年会議所が設立され、通産大臣より認可されました。さらに１９５１年カナダのモントリオールで、開催された国際青年会議所第６回世界会議で日本ＪＣのＪＣＩ加入が認承されました。

日本ＪＣ設立以来、現在まで４０余年、その間日本ＪＣは急速な拡大をみました。１９９８年現在、７５３余のローカル青年会議所（Local Organizatiün Member 略してＬＯＭ）その個人会員数は、６万余名に達しました。

日本ＪＣの組織及び機能

日本青年会議所の機能は各地ローカルＪＣ（ＬＯＭ）の活動が円滑活発に行われやすくするため、ＬＯＭへの連絡調整の機能をつとめるとともに対外的にはＪＣＩの構成メンバー、すなわち国家ＪＣ（National Organization Member 略してＮＯＭ）としての機能を果たしております。

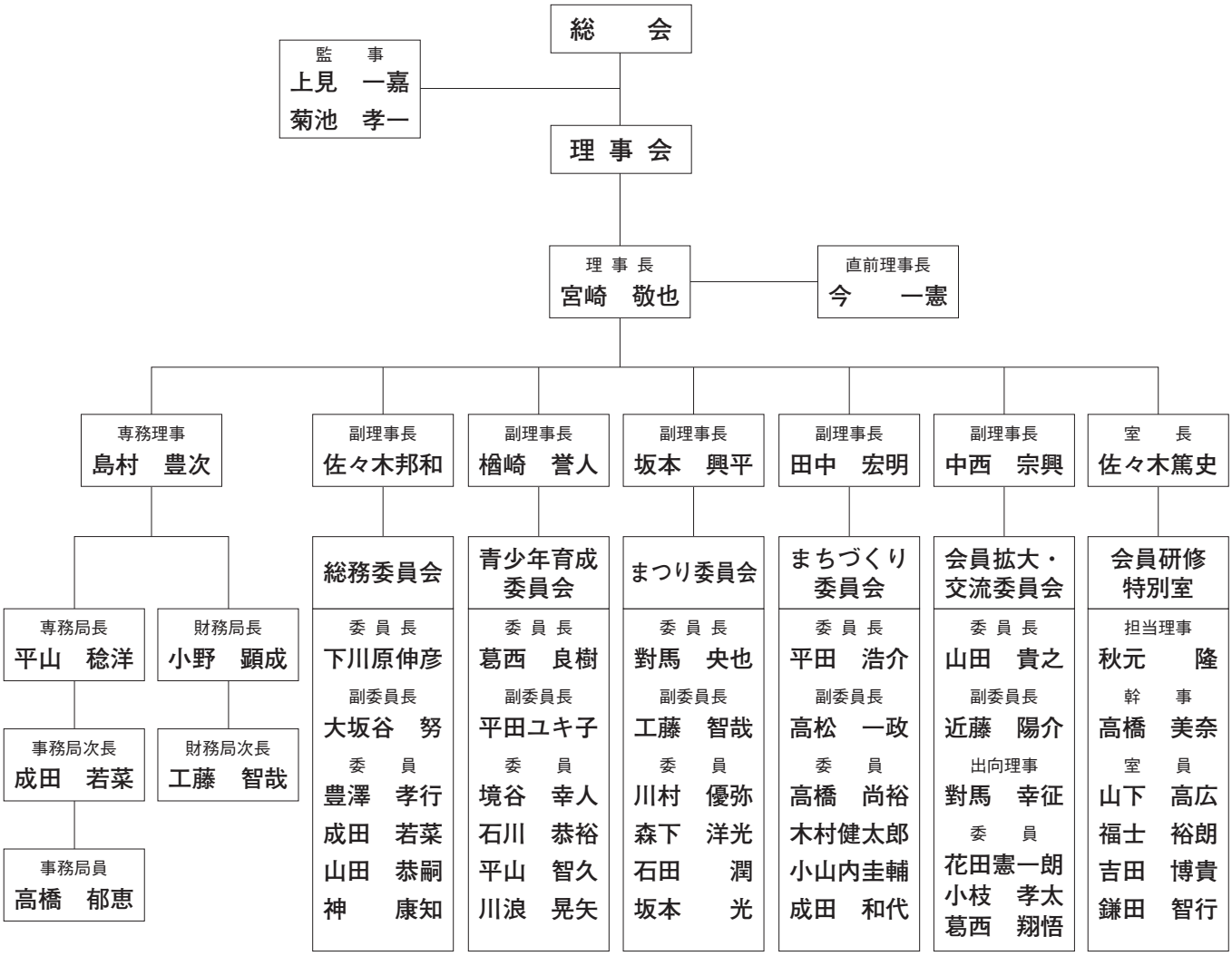
日本ＪＣの組織は１９６７年９月の組織改正によって大幅に変更され、縦にはＪＣＩの一員でＮＯＭとしてＪＣＩの地域担当の副会頭（ＶＰＯ）の統括下にあります。

国内組織において、各会員会議所は各地区担当常任理事の統括下にありますが直接には各ブロック協議会会長（評議員）につながっており、ＬＯＭとして日本ＪＣの構成員であります。日本ＪＣには最高の意思決定機関として総会（日本ＪＣ定款２０～２９条）がありますが、その下に評議員会、理事会があって日本ＪＣの執行機関の機能を果たしています。

公益社団法人 五所川原青年会議所 2017年度 理事及び監事

理事長	宮崎 敬也
直前理事長	今 一憲
専務理事	島村 豊次
副理事長	佐々木 邦和
副理事長	楢崎 誉人
副理事長	中西 宗興
副理事長	坂本 興平
副理事長	田中 宏明
会員研修特別室長	佐々木 篤史
総務委員長	下川原 伸彦
青少年育成委員長	葛西 良樹
会員拡大・交流委員長	山田 貴之
まつり委員長	對馬 央也
まちづくり委員長	平田 浩介
会員研修特別室担当理事	秋元 隆
事務局長	平山 稔洋
財務局長	小野 顕成
出向理事	對馬 幸征
監事	上見 一嘉
監事	菊池 孝一

公益社団法人 五所川原青年会議所



２０１７年度　出向者一覧

〈東北地区協議会〉

■総務広報委員会	副委員長	中西宗興
■東北青年フォーラム運営委員会	委員	高橋美奈
■東北ゼミナール委員会	委員	田中宏明

〈青森ブロック協議会〉

■青森デザイン推進委員会	担当副会長	今一憲
	副委員長	高橋尚裕
	委員	佐々木邦和
■創発ＬＯＭ推進委員会	委員	近藤陽介
■創発社会推進員会	委員	平田浩介
■創発地域推進員会	委員	佐々木篤史
■総務委員会	委員	小野顕成
■アカデミー大学	塾長	對馬幸征
	運営幹事	平山稔洋
	塾生	川村優弥
	塾生	川浪晃矢
	塾生	山下高広
	塾生	境谷幸人
	塾生	神康知
	塾生	石田潤
	塾生	小山内圭輔
	塾生	葛西翔悟
	塾生	森下洋光
	塾生	石川恭裕
	塾生	山田恭嗣
	塾生	福士裕朗

委員会事業方針・事業計画

総務委員会

担当副理事長　佐々木　邦　和

基本方針

昭和３９年、第１８回オリンピックが東京で開催されるなど日本全体が高度成長を続ける中、我々の先輩方は地域の「明るい豊かな社会」の実現を目的として、五所川原青年会議所が創立されました。以降、公益社団法人格取得など移り変わる時代の中に於いても一貫した目的の下、まちや人の発展に向けた市民意識の変革運動を展開して参りました。責任世代である我々はこの創始の精神を受け継ぎ、公益社団法人としての責務を果たさなければなりません。

総務委員会では、今年度６年目を迎える公益社団法人としての責務である「民間が担う高い公共性」を担保する為に総会並びに各種定例会を円滑に執り行い、まちづくり・ひとづくり運動の推進を支えて参ります。併せて、公益社団法人としての責務である外部へ向けた当会の情報公開並びに運動展開をより広域的かつ迅速に発信していくことで地域への認知と浸透を図り、広く地域からの信頼を得られる環境を培って参ります。

「民間が担う高い公共性」の担保を図りながら当会の積極的な運動展開を支えると共に、責務である情報発信を行うことで広く地域からの信頼を得られる環境を整備することは、「明るい豊かな社会」の実現に向けた未来開拓と確信し、邁進して参ります。

委員長　下川原　伸　彦

基本方針

五所川原青年会議所は創始から今日に至るまで地域の「明るい豊かな社会」の実現に向けて挑戦し続けて参りました。各時代、各世代、変動する社会の中で抱える課題に対し最善のまちづくり・ひとづくり運動を展開してきた先輩方の精神を受け継ぎ、我々も同様に、地域の未来を切り拓いて行かなければなりません。そしてその精神をまた次の世代へと受け渡して行く為に、高い公共性を維持した運営を努める責務があります。

今年度、総務委員会では公益社団法人として「民間が担う高い公共性」を維持すると共に、まちづくり・ひとづくり運動の促進を支える為にも、総会、定例会の設営、新年祝賀会、選考委員会委員選挙を滞りなく執り行って参ります。またホームページによる当会の運動発信、会員名簿、基本資料作成による情報公開を十分に行い、対外的、対内的にも信頼を得て我々の運動をより推し進めていく環境を培って参ります。

「明るい豊かな社会」の実現に向け、総務委員会が総会の開催、定例会の運営をこれまで以上に滞りなく行うと共に、公益社団法人として地域からの信頼を得ることはさらなる当会の発展、地域の未来を切り拓く糧となる事を確信し、挑戦してまいります。

事業計画並びに事業予算

総会・例会の運営

◎新年祝賀会（１月）**他１**

新体制でのご挨拶と当会の２０１７年度の活動内容と方針を来賓の方々に向けて発表し、理解を深めて頂くことを目的とした事業

・通信運搬費	４５,０００円	・消 耗 品 費	５,０００円
・印刷製本費	１０,０００円	・委　託　費	８５,０００円

予算　１４５,０００円

◎ 通常総会（２月）　管理費に計上

当会の２０１６年度の事業報告及び、収支決算報告承認を行うことを目的とした総会

・通信運搬費	１０,０００円	・消 耗 品 費	５,０００円
・印刷製本費	１０,０００円	・賃　借　料	４５,０００円

予算　７０,０００円

◎定例会（７月）他２

役員選考委員会委員選挙

当会の２０１７年度の役員選考委員会委員を選出することを目的とした定例会

・通信運搬費	５,０００円	・消 耗 品 費	５,０００円
・印刷製本費	５,０００円	・賃　借　料	５,０００円
・委　託　費	５,０００円		

予算　２５,０００円

◎通常総会（９月）管理費に計上

当会の２０１８年度の役員候補者及び組織図案の承認を行うことを目的とした総会

・通信運搬費	１０,０００円	・消 耗 品 費	５,０００円
・印刷製本費	５,０００円	・賃　借　料	１５,０００円

予算　３５,０００円

◎ 定例会（１２月）他２

当会の２０１８年度の基本方針（案）及び収支予算について報告を行い、２０１８年度への引き継ぎを目的とした例会

・通信運搬費	５,０００円	・消 耗 品 費	５,０００円
・印刷製本費	１５,０００円	・賃　借　料	３５,０００円
・委　託　費	５,０００円		

予算　６５,０００円

その他の事業　他１

◎ 褒賞の企画

２０１７年度の青年会議所運動に貢献・功労したメンバー及び委員会への褒賞の企画を目的とした事業（ＬＯＭ内褒賞）

・雑　　費　　７０,０００円

予算　７０,０００円

◎基本資料の作成（管理費に計上）

当会の方向性と財務状況を対内外へ向け情報公開を行う事を目的とした基本資料の作成

・通信運搬費	１,０００円	・消 耗 品 費	１,０００円
・印刷製本費	１,０００円	・委　託　費	２５０,０００円

予算　２５３,０００円

◎会員名簿の作成管理費に計上

当会のメンバーの情報を関係諸団体へお伝えする為の名簿作成

・通信運搬費	１,０００円	・消 耗 品 費	１,０００円
・印刷製本費	１,０００円	・委　託　費	４５,０００円

予算　４８,０００円

◎ＷＥＢサイトの企画・運営・更新　他３

地域の方々に当会の認知と理解を深めていただくための情報公開を目的としたＷＥＢサイトの企画、運営、更新

・委　託　費　２９,０００円

予算　２９,０００円

◎定例会の設営

事業費合計　７４０,０００円

青少年育成委員会

担当副理事長　楢　崎　誉　人

基本方針

豊かな自然と人の温もりの中で我々を育み続けてきた、我がふるさと五所川原。愛するこの地域の次なる担い手は、今を生きる子ども達に他なりません。我々の幼少期に比べ核家族化や社会の情報化が進み、青少年に掛かるストレスも増加の一途を辿っています。そんな時代だからこそ、地域の未来である子ども達の心を強く、そして豊かに成長させなければなりません。自らの可能性に「挑戦」し、自分自身の未来、そして地域の未来を切り拓いて行く人材を育成する事が必要だと考えます。

その為に、当委員会では青少年の感受性や社会性を育むことを目的として、日常生活では決して経験する事の出来ない様々な体験、学びの場を創出する事で、思いやり溢れる青少年の育成へと繋げて参ります。また、日々の厳しい稽古に耐え、自分自身の未来を切り拓く事に「挑戦」している地域の子ども達のバックアップは勿論、今年度も関係諸団体と連携して「わんぱく相撲大会」を開催し、心身ともにたくましく、活力ある青少年を育成して参ります。

我々の事業を通じて経験した友情、困難、挫折、感謝、感動は必ず今後の人生を照らす光となります。その光が周囲にそして地域に波及し、やがては「明るい豊かな社会」の創造に繋がるものと確信し、一年間邁進して参ります。

委員長　葛　西　良　樹

基本方針

現代の子ども達を取り巻く環境は、目まぐるしい速度で変化し続けています。その中で、社会体験や生活体験の不足により、自立の遅れ、将来への夢を描けない子ども達も少なくありません。今後、地域の未来を支え担って行かなければいけない子ども達が、自らの可能性に気づき、自分自身の考えを持ち行動していける人材になる為の道筋を作っていかなければいけません。元気いっぱい未来へと羽ばたいて行く為にも「挑戦」する機会を創出し、多様な体験を経験し成長して行く場が必要だと考えます。

そこで、青少年育成委員会では「挑戦」の機会として、新たな風を吹き込んだ徒歩事業を開催し、「じょっぱりロード」として再開して参ります。様々な体験を通して、感受性豊かに自分自身で行動し、社会に通用する青少年の育成を目指して参ります。また「わんぱく相撲大会」を開催し、自分自身の未来へ「挑戦」している子ども達の心身の鍛錬、相撲が持つ礼節を知り、人を思いやる気持ちや感謝の心を育めるように促し、成長の場として行動して参ります。

事業を通じて培った経験は、今後自分自身が成長していく為の糧となり、人生において大きな財産となります。また、この財産は今後、地域の宝となり、「明るい豊かな社会」の創造に繋がるものと確信し、一年間邁進して参ります。

事業計画並びに事業予算

※例会の主管

◎公開定例会（５月）公１

わんぱく相撲津軽地区大会（仮称）

心身の鍛錬、相撲が持つ礼節を知り、人を思いやる気持ちや感謝の心を育み、自分自身の未来の為に、全国大会への出場権を目指す大会を開催し、運営及び設営する定例会。

・通信運搬費	６,０００円	・消耗品費	１５,０００円
・印刷製本費	７０,０００円	・賃借料	２０,０００円
・保険料	３０,０００円	・委託費	５５,０００円
・雑費	５０,０００円		

予算　２４６,０００円

◎公開定例会（８月）公１

「じょっぱりロード２０１７」（仮称）

参加者・ボランティア・JC メンバーそれぞれが「徒歩事業」を通じ感受性と社会性を育み、自身の成長を促す公開定例会。

・旅費交通費	３００,０００円	・通信運搬費	１０,０００円
・消耗品費	９０,０００円	・印刷製本費	３０,０００円
・賃借料	１０,０００円	・保険料	３０,０００円
・諸謝金	２５,０００円	・委託費	２５０,０００円
・雑費	３２５,０００円		

予算　１,０７０,０００円

※その他の事業

◎その他の事業（１０月）公１

「じょっぱりロード２０１７」報告会（仮称）

参加者・ボランティア・ＪＣメンバーと共に「じょっぱりロード２０１７」を振り返る事業報告会。

・通信運搬費	１０,０００円	・消耗品費	５,０００円
・印刷製本費	５,０００円	・賃借料	１０,０００円
・雑費	３０,０００円		

予算　５０,０００円

◎わんぱく相撲全国大会（７月）公１

津軽地区大会で上位に入賞し、全国大会へ出場する子ども達の引率。

・旅費交通費	９６,０００円	・通信運搬費	１８,０００円
・支払負担金	１０,０００円	・雑費	５５,０００円

予算　１７９,０００円

事業費合計　１,５４５,０００円

まつり委員会

担当副理事長　坂　本　興　平

基本方針

「奥津軽虫と火まつり」は地域の先人達に支えられ、本年で４５回目を迎えることになります。「天下泰平」「国家安泰」「五穀豊穣」「悪疫退散」の祈りを込めて、１９７３年から毎年開催されて参りました。この伝統ある「地域の幸せ」を願うまつりも、近年は参加団体の減少、後継者不足等様々な問題に直面しております。まもなく半世紀に迫るこの伝統の燈火を絶やさぬ様、関係諸団体との意識共有と連携を図りながら、より継続的に運動を展開して行かなければなりません。

まずは、半世紀を見据え自分たちの年代よりも若年層の方々へ広く「奥津軽虫と火まつり」への参画を促します。そして、参画いただいた世代のさらに下の世代へ、この素晴らしいまつりを広く継承して参ります。さらに、我々青年会議所メンバー一人ひとりが、より当事者意識をもち関係諸団体と連携を密にしながら、現行の問題点や課題を少しづつ前進させることにより、節目の半世紀に繋げます。また、伝統ある地域のまつりが未来永劫に渡り、運動展開できるよう情熱をもって活動して参ります。

半世紀を見据えた「奥津軽虫と火まつり」。先人達の行跡に敬意を表し、地域の弥栄を祈願するこの素晴らしいまつりを、今後の地域を担う次世代に継承することにより、「地域の未来を切り拓き」「明るい豊かな社会の実現」に繋がるものと確信し、一年間職責を果たせるよう邁進して参ります。

委員長　對　馬　央　也

基本方針

１９７３年より開催され、本年で４５回目を迎える「奥津軽虫と火まつり」。自然との苦闘の歴史から生まれた「地域の幸せ」を願うまつりは、いよいよ半世紀に差し掛かろうとしています。地域に愛されているこの伝統行事も、近年は参加団体の減少、後継者不足等の問題に直面しています。まもなく節目を迎える伝統の燈火を絶やさぬ様、関係諸団体との意識共有・連携を図り、まつりの更なる未来を切り拓くため、より継続的な運動を展開して行かなければなりません。

その為にも、高校生・大学生を対象とした親善大使活動を継続し、親善大使に登録する定例会を開催します。その中で、まつりの意義・大切さを学んだ親善大使による地域への周知活動、そして小学生へと広く伝承して参ります。また、関係諸団体・当会ＯＢそして青年会議所メンバーが現行のまつりの課題を話し合い、節目に向け解決へと前進する為の場を創出します。そして、関係諸団体と一丸となり、節目へと一歩踏み出した「奥津軽虫と火まつり」を開催し、次代に向けて伝承して参ります。

半世紀の節目へと歩き出す「奥津軽虫と火まつり」。５０回目を見据えて運動を展開し、この歴史ある伝統行事を次世代に伝承していくことにより「地域の未来を切り拓き」「明るい豊かな社会の実現」そしてこの地域の「弥栄」に繋がるものと確信し、一年間職責を果たせるよう邁進して参ります。

事業計画並びに事業予算

※例会の主管

◎公開定例会　（４月）公２

「奥津軽虫と火まつり親善大使登録会～学び伝えよう「地域の幸せ」を願うまつり～」（仮称）
高校生と大学生を対象に「奥津軽虫と火まつり」の周知活動をしていただく親善大使の登録会を行う。その中で､｢地域の幸せ｣を願うまつりの歴史･由来･大切さを認識して頂き､親善大使活動を意欲的に行っていただく事を狙いとした定例会。

・通信運搬費	５,０００円	・消耗品費	５,０００円
・印刷製本費	１５,０００円	・賃借料	５,０００円
・保険料	５,０００円	・委託費	５,０００円
予算	４０,０００円		

予算　４０,０００円

◎公開定例会　（６月）公２

「奥津軽虫と火まつり」

公益社団法人五所川原青年会議所が主催し、地域の人々や参加者と共に「天下泰平」「国家安泰」「五穀豊穣」「悪疫退散」の祈りを込め、「地域の幸せ」を願う定例会。

・旅費交通費	５,０００円	・通信運搬費	８０,０００円
・消耗什器備品費	３０,０００円	・消耗品費	９００,０００円
・印刷製本費	１００,０００円	・賃借料	３００,０００円
・保険料	２１０,０００円	・諸謝金	２００,０００円
・租税公課	１５,０００円	・支払負担金	３０,０００円
・委託費	２,０００,０００円	・衛生費	１６０,０００円
・雑費	１４０,０００円		

予算　４,１７０,０００円

※その他の事業

◎奥津軽虫と火まつりの周知、そして伝承（仮称）（通年）公２

「奥津軽虫と火まつり親善大使」が活躍する事業。

・旅費交通費	５,０００円	・通信運搬費	５,０００円
・消耗品費	５,０００円	・印刷製本費	１０,０００円
・賃借料	５,０００円	・保険料	１０,０００円
・委託費	５０,０００円		

予算　９０,０００円

◎奥津軽虫と火まつりを考える事業（仮称）（７月）公２

関係諸団体並びに当会ＯＢを交え、「奥津軽虫と火まつり」の問題点や課題について意見交換を行い、節目となる第５０回に向け、解決へと前進する為の事業。

・通信運搬費	５,０００円	・消耗品費	５,０００円
・印刷製本費	１５,０００円	・賃借料	５,０００円
・委託費	５,０００円		

予算　３５,０００円

事業費合計　４,３３５,０００円

まちづくり委員会

担当副理事長　田　中　宏　明

基本方針

私たちが生まれ育ち愛する「ふるさと」五所川原。人情に厚い文化を持つこのまちは、かつての高度経済成長期からバブル期にかけて、中心街は若者が多く賑やかで活気に溢れていました。しかし現在、そこにかつての活気は感じられません。なぜなら、まちの喫緊の課題である人口減少が加速し、衰退の一途を辿っているからです。未来を担う責任世代として、私たちは「ふるさと」の衰退を食い止めるべく、多年に渡り継続的に、また新たな地域活性に取り組まなければなりません。

その為には、先ず、私たちがこのまちの現状を理解し、会員相互にその意識共有を図るとともに、新たな地域活性として、広域的な取組に意義があると考えます。また、継続した地域活性として、市民の参画意識の向上を図りつつ、「市民」「行政」「当会」が三位一体となって取り組む必要があります。そこで、その為の組織づくりを行い、市民が参画できる機会と、その意見を実現できる機会を創出致します。これを「ふるさと」の未来を見据えた「まちづくり」と捉え、運動を展開して参ります。

人情に厚いこのまちの人は、「ふるさと」を想う心もまた厚く、「まちづくり」を継続し「ふるさと」の衰退が食い止められたその日には、たくさんの人が強く結びついた「愛溢れるふるさと」となり、延いては、「明るい豊かな社会」の実現に繋がるものと確信し、一年間邁進して参ります。

委員長　平　田　浩　介

基本方針

自分たちの住み暮らすこの地域は、山や海や湖など自然豊かで、四季折々の美しさがあり、特に夏には、たくさんの祭りが開催され、大いに盛り上がりをみせています。しかし、その一方で、少子高齢化や人口減少が進み、後継者不足や地場産業の衰退も問題視されております。この問題をこの地域に住み暮らす「人」による前向きな社会参画意識を持って、地域の未来の為に行動を起こし、地域活性に繋げていかなければなりません。

その為には、２０１２年度から継続して行われている、「市民」「行政」「当会」の協働による「市民討議会」を開催して、地域に起こっている課題と特色について意見を交わし、市民一人ひとりに前向きな社会参画意識を抱いて頂けるよう、事業を計画して参ります。そして、「市民討議会」で提案された意見を実現する事業と「市民討議会報告会」を開催するとともに、この地域で行われている「まちづくり」運動の情報を共有できる事業を行い、地域全体のまちづくり運動の意識向上を目指して参ります。

この地域に住み暮らす「人」が、前向きな社会参画意識を持って地域を想い行動し、「まちづくり」運動を展開して行く事で、人口減少にも歯止めをかけ、地域活性に繋がって行くとともに、当会が目指す「明るい豊かな社会」の実現に繋がるものと確信し、一年間邁進して参ります。

事業計画並びに事業予算

※例会の主管

◎公開定例会　２０１７年度五所川原市民討議会報告会　（１１月）公３

当年度の五所川原市民討議会とその実行事業の結果を五所川原市・市民に報告する定例会

・通信運搬費　８,０００円　・印刷製本費　１０,０００円
・委　託　費　３,０００円

予算　２１,０００円

※その他の事業

◎２０１７年度「まちづくり」運動を考える事業（３月）他２

地域全体が「まちづくり」運動の情報を共有できる事業

・通信運搬費　８,０００円　・賃　借　料　５０,０００円
・消 耗 品 費　１０,０００円　・委　託　費　１００,０００円
・印刷製本費　４０,０００円　・雑　　費　５０,０００円

予算　２５８,０００円

◎２０１７年度五所川原市民討議会（７月）公３

前向きな社会参画意識を持って、「まちづくり」運動を考える市民参加型討議会

・支払寄付金　２００,０００円

予算　２００,０００円

◎２０１７年度五所川原市民討議会実行事業（１０月）公３

当年度の五所川原市民討議会で出された意見を基に具現化する事業

・通信運搬費　８,０００円　・賃　借　料　３０,０００円
・消耗品費　１０,０００円　・委　託　費　２００,０００円
・印刷製本費　１０,０００円　・雑　　費　１２,０００円

予算　２７０,０００円

◎２０１７年度五所川原市民討議会報告会（１１月）公３

当年度の五所川原市民討議会とその実行事業の結果を五所川原市・市民に報告する報告会

・支払寄付金　１５０,０００円

予算　１５０,０００円

事業費合計　８９９,０００円

会員拡大・交流委員会

担当副理事長　中　西　宗　興

基本方針

我々青年会議所のまちづくり運動は、例えるなら水面に投じた小石による波紋が広がっていくようなものです。波紋をより大きくする為には投げる小石の数を増やす事が必要であり、会員数の拡大は運動の発信力に直結します。また会員交流の促進により、組織の運動意識を共有する事で皆が同じベクトルに向けて運動を推進する事により当会の運動をより強く地域に伝播することができます。我々が運動を強く地域に伝播し､次の世代にバトンを繋ぐ為にも会員拡大と相互交流を強く進めなければなりません。

その為にまず、当会の中で会員拡大の重要性を強く意識付けいたします。そして、本会との綿密な連携を取りながら、会員拡大を推進して参ります。さらに、当委員会が中心となって会員拡大に向けた情報共有をし、会員全員を巻き込んだ拡大運動をして参ります。また、会員相互の交流を進める事により、目的意識の共有を図ります。そして、先輩諸兄、家族との交流を進める事により、当会の運動に一層の御理解、ご協力を賜れるようにして参ります

当委員会が中心となり、会員拡大・交流を進めていく事により、青年会議所運動を進める目的意識が統一され、より一層当会の運動を地域に伝播していく力を強くしていく事が、「明るい豊かな社会」の実現に繋がると確信し、一年間邁進して参ります。

委員長　山　田　貴　之

基本方針

会員拡大活動は、例えるなら人間にとっての呼吸のようなものであり、一時も休むことは許されません。会員拡大活動の停滞による会員数の減少は､青年会議所運動の地域への波及力を弱める事に繋がり、また会員交流は会全体の青年会議所運動の目的意識の統一を図る大切な手段であります。その意識の統一により、当会の運動を地域へ強く伝播する事ができます。この尊い運動を次代へ引き継いでいく為にも、会員拡大並び会員交流に真剣に取り組む必要があります。

その為にはまず、会全体に定期的に対象者情報を求め、拡大対象者リストを作成します。会員拡大活動に対する当事者意識を浸透させ、会員拡大の重要性を強く意識付けさせます。そして、先輩諸兄並び他団体へ会員拡大活動を行うことで、幅広く会員候補者の情報収集に努めます。また、青年会議所の魅力を発信する会員拡大の定例会を行います。さらに OB 交流会、家族交流会を行い会全体の運動に一層の御理解、御協力を賜れるようにして参ります。

当委員会が会員拡大・交流事業活動の中心となり、会員相互の交流を深めていき、また、多くの会員に拡大の重要性を伝えていきます。そして一人でも多くの仲間を増やしていくことにより当会の活動を強く地域に伝播し、次代へと繋げられると確信し、一年間邁進して参ります。

事業計画並びに事業予算

◎ OB 交流会（２月）他１

諸兄先輩方と会員が親陸を深めてもらうことを目的とする事業

・通信運搬費	３,０００円	・印刷製本費	３,０００円
・消 耗 品 費	１０,０００円	・委　託　費	１０,０００円
・雑　　費	５,０００円		

予算　３１,０００円

※例会の主管

※拡大に繋がる拡大事業

◎定例会（３月）他２

会員拡大と会員相互の交流の意義を理解し、行動に繋がることを目的とした定例会

・通信運搬費	６,０００円	・消 耗 品 費	１０,０００円
・印刷製本費	５,０００円	・賃　借　料	５,０００円
・諸謝金	３０,０００円	・雑　　費	１０,０００円

予算　６６,０００円

◎異業種交流会（４月）他１

会員拡大に繋げることを目的とする事業

・通信運搬費	５,０００円	・消 耗 品 費	５,０００円
・印刷製本費	１０,０００円	・雑　　費	５,０００円

予算　２５,０００円

◎家族交流会（１２月）他１

会員家族同士が親陸を深めることを目的とする事業

・通信運搬費	５,０００円	・消耗品費	２０,０００円
・印刷製本費	３,０００円	・賃　借　料	１０,０００円
・保　険　料	５,０００円	・委　託　費	５,０００円
・雑　　費	２０,０００円		

予算　６８,０００円

◎ 会員拡大事業（通年）他２

新入会員の拡大を目的とする事業

・通信運搬費	１０,０００円	・印刷製本費	１,０００円
・委　託　費	３３,０００円		

予算　４４,０００円

事業費合計　２３４,０００円

会員研修特別室

担当室長　佐々木　篤　史

基本方針

私たちはＪＡＹＣＥＥとして、先輩諸兄の頃より、地域における「明るい豊かな社会」の実現を目指し、邁進して参りました。今後もこれを継続し、更なる発展を目指すためには、青年経済人としての立場でのみならず、青年会議所という地域の未来を切り拓く組織の一員として、会員一人ひとりの資質を向上させることが必要不可欠です。また、受け継がれた知識や経験をたゆむことなく私たちが受け継ぎ進化させ、更なる未来へと「挑戦」することが私たち青年会議所会員としての務めであります。

今年度、会員研修特別室では当会会員としてあるべき姿を改めて見つめ直すと共に、個々の更なる飛躍、そして、地域の未来の為に繋がる様、多面的な知識や経験を習得できる機会を創出し、幅広い視野をもつことができる人材を育成致します。また、新入会員を対象に当会会員としての基礎や資質を学ぶ機会を設けることにより、当会が積み重ねてきた知識や経験が継続的に受け継がれ、更なる未来へと「挑戦」できる人材を育成致します。

会員一人ひとりが多面的な知識や経験を経て、資質を学び研鑽され、輝き溢れる自分自身へと飛躍することが、当会全体の成長のみならず、会社や家族、地域の発展へと繋がり、如いては地域の未来を切り開き、「明るい豊かな社会」の実現へ繋がるものと確信致します。

担当理事　秋　元　　隆

基本方針

我々は２０歳から４０歳までの限られた間に、青年経済人として、また青年会議所という地域の未来を切り拓く組織の一員として、偏ることなく地域活性化の為に学んでいかなければなりません。当会会員として様々な運動をしていく中で、会員同士がお互いに切磋琢磨し、お互いを高めていくためにも多面的な学びの場を設け、会員一人ひとりが研鑽し資質を高め自己の成長へ繋げると共に、五所川原青年会議所全体の成長に繋げていかなければなりません。

そのためには今年度会員研修特別室の活動と致しまして、新入会員が会員としてこれからの当会をしっかりと担っていく為の「思い」や「基礎」を学ぶ場を設けていきます。また、青年会議所会員としての視野も含めた多面的な視野での学びの機会を設け自己の成長へ繋げると共に、諸先輩の考えを学ぶ場を設け、知識や経験を習得できる機会を創出し、「修練」「奉仕」「友情」という三信条の基礎を深く理解し、幅広く活躍できる人材の育成を致します。

会員一人ひとりがしっかりと学び、その学び得たことを実践し、自分自身が飛躍することにより、当会のみならず、会社や家族、地域からも必要とされる人材・団体となれるものと信じ、一年間邁進して参ります。

事業計画並びに事業予算

※例会の主管

◎定例会（１０月）他２

会員の資質向上を目的とした定例会

・通信運搬費	５,０００円	・消耗品費	３,０００円
・印刷製本費	３,０００円	・賃借料	６,０００円
・諸謝金	１０,０００円	・委託費	１０,０００円

予算　３７,０００円

※その他の事業

◎新入会員セミナー（未定）他２

青年会議所会員としての「基礎」を学ぶセミナー

・通信運搬費	３,０００円	・印刷製本費	５,０００円
・賃借料	５,０００円	・委託費	５,０００円

予算　１８,０００円

◎会員の資質向上につながるセミナー（２月）他２

先輩から学ぶ青年会議所の活かし方（仮称）

・旅費交通費	６,０００円	・通信運搬費	５,０００円
・消耗品費	３,０００円	・印刷製本費	３,０００円
・賃借料	１０,０００円	・諸謝金	１０,０００円
・委託費	１０,０００円	・雑費	５,０００円

予算　５２,０００円

事業費合計　１０７,０００円

年間事業スケジュール（事業）

	1　月	2　月	3　月	4　月	5　月	6　月
日本青年会議所	京都会議 京都　20日(金)～22日(日) 総会　京都21日(土)		総会 東京　25日(土)			ASPAC モンゴル 8日(木)～11日(日)
東北地区協議会	正副会議 福島　6日(金) 正副拡大会議 仙台　27日(金) 役員会議 福島　16日(月) 会員会議所会議 京都　21日(土)	正副拡大会議 仙台　24日(金) 役員会議 仙台　10日(金) ゼミナール開校式 仙台11日((土))	正副拡大会議 白河　26日(日) 役員会議 水沢　17日(金) ゼミナール第1講座	正副拡大会議 大曲　23日(日) 役員会議 黒石　7日(金) ゼミナール第2講座	正副拡大会議 高畠　22日(月) 役員会議 花巻　7日(日) ゼミナール第3講座	正副拡大会議 三沢　23日(金) 役員会議 郡山　2日(金) ゼミナール第4講座
青森ブロック協議会	役員会議 青森　11日(水) 会員会議所会議 黒石　28日(土) アカデミー大学開校式・第一講座 黒石　28日(土) 新春名刺交歓会 黒石　28日(B21土)	役員会議 青森　8日(水) 会員会議所会議 五所川原　25日(土)	役員会議 青森　8日(水) 会員会議所会議 三沢　18日(土) アカデミー大学 第二講座	役員会議 青森　5日((水)) 会員会議所会議 八戸　15日((土))	役員会議 青森　10日(水) 会員会議所会議 むつ　27日(土) アカデミー大学 第三講座	役員会議 青森　1日(木)・28日(水) 会員会議所会議 十和田　14日(水) アカデミー大学 第四講座
五所川原青年会議所	新年祝賀会	通常総会	定例会	公開定例会	公開定例会	奥津軽虫と火まつり
理事会	10日（火）	5日（日）	5日（日）	5日（水）	5日（金）	5日（月）
総務委員会	新年祝賀会	通常総会				
青少年委員会					わんぱく相撲 津軽地区大会	
まつり委員会				定例会主管		奥津軽虫と火まつり
まちづくり委員会			「まちづくり」運動を考える事業			
会員拡大・交流委員会	会員拡大事業（通年）	OB交流会	定例会主管	異業種交流会		
会員研修特別室		会員の資質向上に繋がるセミナー				

	7　月	8　月	9　月	10　月	11　月	12　月
日本青年会議所	サマーコンファレンス 横浜　22日(土)～23日(日)		全国大会 埼玉　28日(木)～10月1日(日)		JCI世界会議 【オランダ】 6日(月)～10日(金)	
東北地区協議会	正副会議 盛岡　30日(日) 役員会議 村山　14日(金) ゼミナール第5講座	正副会議 釜石　18日(金)	正副会議 とめ　22日(金) 役員会議 水沢　1日(金) ゼミナール閉校式 水沢　2日(土) 東北青年フォーラム 水沢　2日(土)～3日(日)	正副拡議 天童　27日(金) 役員会議 能代　13日(金)	正副会議 八戸　24日(金) 役員会議 あぶくま　12日(日)	役員会議 福島　1日(金) 会員会議所会議 福島　2日(土)
青森ブロック協議会	会員会議所会議 弘前　1日(土) アカデミー大学 第五講座 弘前　1日(土)～2日(日) ブロック大会 弘前　1日(土)～2日(日)		役員会議 青森　6日(水) 会員会議所会議 青森　16日(土) アカデミー大学 第六講座・閉校式	役員会議 青森　11日(水) 会員会議所会議 黒石　28日(土)	役員会議 青森　15日(水) 会員会議所会議 未定+F3625日(土)	
五所川原青年会議所	選考委員会選挙	公開定例会	通常総会	定例会	公開定例会	定例会
理事会	5日（水）	5日（土）	5日（火）	5日（木）	5日（日）	5日（火）
総務委員会	選考委員会選挙		通常総会			定例会主管
青少年委員会	わんぱく相撲 全国大会	じょっぱりロード 2017		じょっぱりロード 2017報告会		
まつり委員会						
まちづくり委員会	五所川原市民 討議会			五所川原市民 討議会実行事業	五所川原市民 討議会報告会	
会員拡大・交流委員会						家族交流会
会員研修特別室				定例会主管		

2017年度 （公社）五所川原青年会議所 収支予算書(案)

2017年 1月 1日～2017年12月31日
（単位 円）

科　　目	2017年度当初予算	2016年度当初予算	差異	備　　考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①基本財産運用収入	1,000	1,000	0	
②特定資産運用収入	1,000	1,000	0	通帳利息
③入会金収入	0	0	0	新入会員 ￥15,000 入会人数不明の為0
④会費収入	6,840,000	6,360,000	480,000	
正会員会費収入	6,000,000	5,400,000	720,000	￥120000×50名
新加入会員会費収入	0	0	0	￥120,000を入会月により月割 入会人数不明の為0
特別会員会費収入	840,000	960,000	−120,000	￥120,000×7名（2016年度卒業生）
賛助会員会費収入	0	0	0	￥10,000×0社
⑤事業収入	4,400,000	3,855,000	545,000	
登録料収入	500,000	0	500,000	じょっぱりロードの登録料50万
懇親会費収益	0	0	0	
広告料収益	3,900,000	3,800,000	100,000	まつり企業協賛390万
業務受託収入	0	0	0	
預り金収入	0	0	0	
雑収入	0	55,000	−55,000	16事業準備資金取崩し
⑥補助金等収入	50,000	50,000	0	
受取民間補助金収入	50,000	50,000	0	
受取地方公共団体助成金	0	0	0	
受取民間助成金収入	0	0	0	
⑦寄付金収入	0	30,000	−30,000	
受取寄付金収入	0	30,000	−30,000	
⑧雑収入	1,000	1,000	0	
受取利息収入	1,000	1,000	0	各受取利息、日専連受取利息
その他雑収入		0	0	
事業活動収入計	11,293,000	10,298,000	995,000	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	7,464,000	6,373,000	1,091,000	
総務委員会	334,000	335,000	−1,000	新年祝賀会、選考委員会委員選挙、12月定例会、褒章、WEBサイト
青少年育成委員会	1,555,000	793,000	762,000	5月定例会、8月定例会、わんぱく相撲
まつり委員会	4,335,000	4,081,000	254,000	4月定例会、6月定例会、親善大使事業
まちづくり委員会	899,000	880,000	19,000	11月定例会、市民討議会、報告、市民討議会実行事業
会員拡大・交流委員会	234,000	229,000	5,000	3月定例会、異業種、OB、家族交流会、会員拡大事業
会員研修特別室	107,000	0	107,000	10月定例会、資質向上セミナー、新入会員セミナー
ブロック大会特別室	0	55,000	−55,000	16ブロック大会特別室は今年無し
事業会計支出	0	0	0	
②管理費	3,506,352	3,592,576	−86,224	
給与手当	1,200,000	1,200,000	0	職員給与
退職給付費用	36,000	36,000	0	3,000円×12カ月
福利厚生費	55,000	70,000	−15,000	労働保険・雇用保険、会員お祝い・慶弔
会議費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
通信運搬費	250,000	225,224	24,776	電話料、通信費、プロバイダ料、事業外の発送費、総会￥20,000、会員名簿¥1,00
消耗什器備品費	0	0	0	
消耗品費	70,000	151,000	−81,000	事務用品費等、認証書、総会消耗品¥10,000、会員名簿¥1,000
会員支給品費	35,000	35,000	0	バッジ、ネームプレート等
修繕費	0	0	0	
印刷製本費	300,000	160,000	140,000	事務局コピー代、総会資料¥10,000
燃料費	0	0	0	
水道光熱費	95,412	95,412	0	電気料12ヵ月(7,951×12)
貸借料	686,940	686,940	0	家賃12ヵ月(38,912×12)、コピー機リース料(13,333×12)、総会会場費60,000
保険料	0	0	0	
諸謝金	0	0	0	
租税公課	2,000	3,000	−1,000	収入印紙、県証紙(納税証明等)
渉外費	192,000	300,000	−108,000	慶弔費、諸会費、渉外費（お祝いお酒）
委託費	444,000	440,000	4,000	会員手帳、基本資料￥320,000、会計処理委託¥120,000
減価償却費	40,000	40,000	0	トランシーバー
衛生費	0	0	0	
支払負担金	0	0	0	
支払寄付金	0	0	0	
支払利息	0	0	0	
雑費	100,000	150,000	−50,000	新聞代、振込手数料、広告費、外部手帳
③負担金	1,054,000	958,500	95,500	
国際青年会議所負担金	68,750	61,875	6,875	¥1,375×50名
日本青年会議所負担金	744,000	679,500	64,500	日本・地区・ブロック基本負担金、出向者負担金
国際協力資金	91,250	82,125	9,125	¥1,825×50名
We Believe購読料	150,000	135,000	15,000	¥3,000×50名
事業活動支出計	12,024,352	10,924,076	1,100,276	
事業活動収支差額	−731,352	−626,076	−105,276	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入	0	0	0	
2. 投資活動支出	0	0	0	
①特定資産取得支出	0	0	0	
退職給付引当資産取得支出	0	0	0	
②固定資産取得支出	0	0	0	
什器備品取得支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
Ⅲ 財政活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
当期収支差額	−731,352	−626,076	−105,276	
前期繰越収支差額	20,506,546	19,059,440	1,447,106	
次期繰越収支差額	19,774,494	18,433,364	1,341,130	

2017年度 公益社団法人 五所川原青年会議所 正味財産増減予算書内訳書（案）
2017年1月1日から2011年12月31日まで

（単位：円）

科目名	公益目的事業会計					収益事業等会計					法人会計	内部取引消去	合計
	地域青少年育成事業	虫と火まつり継続事業	地域の健全な発展	共通	小計	会員交流親睦事業	会員拡大・研修事業	JC発信運動事業	共通	小計			
	公1	公2	公3			他1	他2	他3					
①基本財産運用益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1,000**	**0**	**1,000**
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000	0	1,000
②特定資産運用益	**0**	**250**	**0**	**0**	**250**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**750**	**0**	**1,000**
特定資産受取利息	0	250	0	0	250	0	0	0	0	0	750	0	1,000
特定資産受取配当金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取賃貸料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③受取入会金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④受取会費	**0**	**0**	**0**	**2,052,000**	**2,052,000**	**0**	**0**	**0**	**2,052,000**	**2,052,000**	**2,736,000**	**0**	**6,840,000**
正会員会費	0	0	0	1,800,000	1,800,000	0	0	0	1,800,000	1,800,000	2,400,000	0	6,000,000
特別会員会費	0	0	0	252,000	252,000	0	0	0	252,000	252,000	336,000	0	840,000
賛助会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新入会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤事業収益	**500,000**	**3,900,000**	**0**	**0**	**4,400,000**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**4,400,000**
登録料収益	500,000	0	0	0	500,000	0	0	0	0	0	0	0	500,000
懇親会費収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広告料収益	0	3,900,000	0	0	3,900,000	0	0	0	0	0	0	0	3,900,000
販売収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務局受託収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥受取補助金等	**0**	**50,000**	**0**	**0**	**50,000**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**50,000**
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間補助金	0	50,000	0	0	50,000	0	0	0	0	0	0	0	50,000
受取国庫助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取補助金等振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦受取負担金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取負担金振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧受取寄付金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
募金収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨雑収益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1,000**	**0**	**1,000**
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有価証券運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000	0	1,000
経常収益計	**500,000**	**3,950,250**	**0**	**2,052,000**	**6,502,250**	**0**	**0**	**0**	**2,052,000**	**2,052,000**	**2,738,750**	**0**	**11,293,000**
①事業費	**1,555,000**	**4,335,000**	**641,000**	**1,600,676**	**8,131,676**	**429,000**	**475,000**	**29,000**	**960,406**	**1,893,406**	**0**	**0**	**10,025,082**
事業費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当	0	0	0	600,000	600,000	0	0	0	360,000	360,000	0	0	960,000
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	27,500	27,500	0	0	0	16,500	16,500	0	0	44,000
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	396,000	10,000	0	0	406,000	0	6,000	0	0	6,000	0	0	412,000
通信運搬費	44,000	95,000	16,000	125,000	280,000	68,000	37,000	0	75,000	180,000	0	0	460,000
消耗什器備品費	0	30,000	0	0	30,000	0	0	0	0	0	0	0	30,000
消耗品費	110,000	915,000	10,000	35,000	1,070,000	50,000	26,000	0	21,000	97,000	0	0	1,167,000
会員支給品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	105,000	140,000	20,000	150,000	415,000	46,000	57,000	0	90,000	193,000	0	0	608,000
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
燃料費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
光熱水料費	0	0	0	47,706	47,706	0	0	0	28,624	28,624	0	0	76,330
賃借料	40,000	315,000	30,000	343,470	728,470	50,000	76,000	0	206,082	332,082	0	0	1,060,552
保険料	60,000	225,000	0	0	285,000	5,000	0	0	0	5,000	0	0	290,000
諸謝金	25,000	200,000	0	0	225,000	0	50,000	0	0	50,000	0	0	275,000
租税公課	0	15,000	0	0	15,000	0	0	0	0	0	0	0	15,000
渉外費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
委託費	305,000	2,060,000	203,000	222,000	2,790,000	110,000	158,000	29,000	133,200	430,200	0	0	3,220,200
支払寄付金	0	0	350,000	0	350,000	0	0	0	0	0	0	0	350,000
衛生費	0	160,000	0	0	160,000	0	0	0	0	0	0	0	160,000
雑費	460,000	140,000	12,000	50,000	662,000	100,000	65,000	0	30,000	195,000	0	0	857,000
支払負担金	10,000	30,000	0	0	40,000	0	0	0	0	0	0	0	40,000
②管理費											**1,999,270**	**0**	**1,999,270**
給料手当											240,000	0	240,000
退職給付費用											36,000	0	36,000
福利厚生費											11,000	0	11,000
会議費											0	0	0
旅費交通費											0	0	0
通信運搬費											50,000	0	50,000
消耗什器備品費											0	0	0
消耗品費											14,000	0	14,000
会員支給品費											35,000	0	35,000
修繕費											0	0	0

印刷製本費											60,000	0	60,000
減価償却費											40,000	0	40,000
燃料費											0	0	0
光熱水料費											19,082	0	19,082
賃借料											137,388	0	137,388
保険料											0	0	0
諸謝金											0	0	0
租税公課											2,000	0	2,000
渉外費											192,000	0	192,000
委託費											88,800	0	88,800
記念品費											0	0	0
衛生費											0	0	0
雑費											20,000	0	20,000
支払負担金											1,054,000	0	1,054,000
日本青年会議所負担金											744,000	0	744,000
国際協力資金											91,250	0	91,250
国際青年会議所負担金											68,750	0	68,750
We Believe購読料											150,000	0	150,000
経常費用計	**1,555,000**	**4,335,000**	**641,000**	**1,600,676**	**8,131,876**	**429,000**	**475,000**	**29,000**	**960,406**	**1,893,406**	**1,999,270**	**0**	**12,024,352**
評価損益等調整前当期経常増減額	-1,055,000	-384,750	-641,000	451,324	-1,629,426	-429,000	-475,000	-29,000	1,091,594	158,594	739,480	0	-731,352
①基本財産評価損益等	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
②特定資産評価損益等	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
③投資有価証券評価損益等	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
評価損益等計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
当期経常増減額	**-1,055,000**	**-384,750**	**-641,000**	**451,324**	**-1,629,426**	**-429,000**	**-475,000**	**-29,000**	**1,091,594**	**158,594**	**739,480**	**0**	**-731,352**
①固定資産売却益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
建物売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
車両運搬具売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
什器備品売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土地売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
借地権売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電話加入権売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②固定資産受贈益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
土地受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
①固定資産売却損	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
建物売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
車両運搬具売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
什器備品売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土地売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
借地権売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電話加入権売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②固定資産除却損	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
土地減損損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券減損損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③災害損失	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
災害損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④雑損失	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
雑損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
当期一般正味財産増減額	-1,055,000	-384,750	-641,000	451,324	-1,629,426	-429,000	-475,000	-29,000	1,091,594	158,594	739,480	0	-731,352
一般正味財産期首残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
一般正味財産期末残高	**-1,055,000**	**-384,750**	**-641,000**	**451,324**	**-1,629,426**	**-429,000**	**-475,000**	**-29,000**	**1,091,594**	**158,594**	**739,480**	**0**	-731,352
①受取補助金等	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②受取負担金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③受取寄付金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④固定資産受贈益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
土地受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤基本財産評価益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
基本財産評価益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥特定資産評価益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
特定資産評価益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦基本財産評価損	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
基本財産評価損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧特定資産評価損	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
特定資産評価損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨一般正味財産への振替額	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
指定正味財産期末残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	-1,055,000	**-384,750**	**-641,000**	**451,324**	**-1,629,426**	**-429,000**	**-475,000**	**-29,000**	**1,091,594**	**158,594**	**739,480**	**0**	**-731,352**

2017年度 公益社団法人五所川原青年会議所 正味財産増減予算書（案）
2017年1月1日から2017年12月31日まで

（単位　円）

	科目	当年度	前年度	増減	備考
Ⅰ	一般正味財産増減の部				
	1．経常増減の部				
	（1）経常収益				
	①基本財産運用益	1,000	1,000	0	
	基本財産受取利息	1,000	1,000	0	
	②特定資産運用益	1,000	1,000	0	
	特定資産受取利息	1,000	1,000	0	
	特定資産受取配当金	0	0	0	
	特定資産受取賃貸料	0	0	0	
	③受取入会金	0	0	0	
	受取入会金	0	0	0	
	④受取会費	6,840,000	6,360,000	480,000	
	正会員会費	6,000,000	5,400,000	600,000	
	特別会員会費	840,000	960,000	−120,000	
	賛助会員会費	0	0	0	
	新入会員会費	0	0	0	
	⑤事業収益	4,400,000	3,855,000	545,000	
	登録料収益	500,000	0	500,000	
	懇親会費収益	0	0	0	
	広告料収益	3,900,000	3,800,000	100,000	
	販売収益	0	0	0	
	事務局受託収益	0	0	0	
	雑収益	0	55,000	−55,000	
	⑥受取補助金等	50,000	50,000	0	
	受取国庫補助金	0	0	0	
	受取地方公共団体補助金	0	0	0	
	受取民間補助金	50,000	50,000	0	
	受取国庫助成金	0	0	0	
	受取地方公共団体助成金	0	0	0	
	受取民間助成金	0	0	0	
	受取補助金等振替額	0	0	0	
	⑦受取負担金	0	0	0	
	受取負担金	0	0	0	
	受取負担金振替額	0	0	0	
	⑧受取寄付金	0	30,000	−30,000	
	受取寄付金	0	30,000	−30,000	
	募金収益	0	0	0	
	受取寄付金振替額	0	0	0	
	⑨雑収益	1,000	1,000	0	
	受取利息	0	0	0	
	有価証券運用益	0	0	0	
	雑収益	1,000	1,000	0	
	経常収益計	11,293,000	10,298,000	995,000	
	（2）経常費用				
	①事業費	10,025,082	8,475,861	1,549,221	
	事業費	0	0	0	
1	給料手当	960,000	960,000	0	
2	退職給付費用	0	0	0	
3	福利厚生費	44,000	56,000	−12,000	
4	会議費	0	0	0	
5	旅費交通費	412,000	95,000	317,000	
6	通信運搬費	460,000	349,576	110,424	
7	消耗什器備品費	30,000	30,000	0	
8	消耗品費	1,167,000	1,126,800	40,200	
9	会員支給品費	0	0	0	
10	修繕費	0	0	0	
11	印刷製本費	608,000	424,800	183,200	
12	減価償却費	0	0	0	
13	燃料費	0	10,000	−10,000	
14	光熱水料費	76,330	76,330	−0	
15	賃借料	1,060,552	875,352	185,200	
16	保険料	290,000	232,000	58,000	
17	諸謝金	275,000	270,000	5,000	
18	租税公課	15,000	10,000	5,000	
19	渉外費	0	0	0	
20	委託費	3,220,200	2,811,000	409,200	
21	支払寄付金	350,000	340,000	10,000	
22	衛生費	160,000	220,000	−60,000	
23	雑費	857,000	544,000	313,000	
24	支払負担金	40,000	45,000	−5,000	

	②管理費	1,999,270	2,448,215	−448,945	
1	給料手当	240,000	240,000	0	
2	退職給付費用	36,000	36,000	0	
3	福利厚生費	11,000	14,000	−3,000	
4	会議費	0	0	0	
5	旅費交通費	0	0	0	
6	通信運搬費	50,000	75,045	−25,045	
7	消耗什器備品費	0	0	0	
8	消耗品費	14,000	60,200	−46,200	
9	会員支給品費	35,000	35,000	0	
10	修繕費	0	0	0	
11	印刷製本費	60,000	92,000	−32,000	
12	減価償却費	40,000	40,000	0	
13	燃料費	0	0	0	
14	光熱水料費	19,082	19,082	0	
15	賃借料	137,388	237,388	−100,000	
16	保険料	0	0	0	
17	諸謝金	0	0	0	
18	租税公課	2,000	3,000	−1,000	
19	渉外費	192,000	300,000	−108,000	
20	委託費	88,800	278,000	−189,200	
21	記念品費	0	0	0	
22	衛生費	0	0	0	
23	雑費	20,000	60,000	−40,000	
24	支払負担金	1,054,000	958,500	95,500	
25	日本青年会議所負担金	744,000	679,500	64,500	
26	国際協力資金	91,250	82,125	9,125	
27	国際青年会議所負担金	68,750	61,875	6,875	
28	We Believe購読料	150,000	135,000	15,000	
	経常費用計	12,024,352	10,924,076	1,100,276	
	評価損益等調整前当期経常増減額	−731,352	−626,076	−105,276	
	①基本財産評価損益等	0	0	0	
	②特定資産評価損益等	0	0	0	
	③投資有価証券評価損益等	0	0	0	
	評価損益等計	0	0	0	
	当期経常増減額	−731,352	−626,076	−105,276	
	2. 経常外増減の部	0	0	0	
	(1)経常外収益				
	①固定資産売却益	0	0	0	
	建物売却益	0	0	0	
	車両運搬具売却益	0	0	0	
	什器備品売却益	0	0	0	
	土地売却益	0	0	0	
	借地権売却益	0	0	0	
	電話加入権売却益	0	0	0	
	②固定資産受贈益	0	0	0	
	土地受贈益	0	0	0	
	投資有価証券受贈益	0	0	0	
	経常外収益計	0	0	0	
	(2)経常外費用	0	0	0	
	①固定資産売却損	0	0	0	
	建物売却損	0	0	0	
	車両運搬具売却損	0	0	0	
	什器備品売却損	0	0	0	
	土地売却損	0	0	0	
	借地権売却損	0	0	0	
	電話加入権売却損	0	0	0	
	②固定資産除却損	0	0	0	
	土地減損損失	0	0	0	
	投資有価証券減損損失	0	0	0	
	③災害損失	0	0	0	
	災害損失	0	0	0	
	④雑損失	0	0	0	
	雑損失	0	0	0	
	経常外費用計	0	0	0	
	当期経常外増減額	0	0	0	
	他会計振替額			0	
	当期一般正味財産増減額	−731,352	−626,076	−105,276	
	一般正味財産期首残高	0	0	0	
	一般正味財産期末残高	−731,352	−626,076	−105,276	

Ⅱ　指定正味財産増減の部				
①受取補助金等	**0**	**0**	**0**	
受取国庫補助金	0	0	0	
受取地方公共団体補助金	0	0	0	
受取民間補助金	0	0	0	
受取国庫助成金	0	0	0	
受取地方公共団体助成金	0	0	0	
受取民間助成金	0	0	0	
②受取負担金	0	**0**	**0**	
受取負担金	0	0	0	
③受取寄付金	0	**0**	**0**	
受取寄付金	0	0	0	
④固定資産受贈益	0	**0**	**0**	
土地受贈益	0	0	0	
投資有価証券受贈益	0	0	0	
⑤基本財産評価益	0	**0**	**0**	
基本財産評価益	0	0	0	
⑥特定資産評価益	0	**0**	**0**	
特定資産評価益	0	0	0	
⑦基本財産評価損	0	**0**	**0**	
基本財産評価損	0	0	0	
⑧特定資産評価損	0	**0**	**0**	
特定資産評価損	0	0	0	
⑨一般正味財産への振替額	0	**0**	**0**	
一般正味財産への振替額	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	**0**	**0**	
指定正味財産期末残高	0	**0**	**0**	
Ⅲ　正味財産期末残高	**−731,352**	**−626,076**	**0**	

2016年度 公益社団法人 五所川原青年会議所

事　業　報　告

収 支 決 算 書

庶　務　報　告

２０１６年度をかえりみて

2016 年度理事長　今　　一　憲

まずは２０１６年度共に活動してきたメンバー、地域の皆様、先輩諸兄、今年の五所川原青年会議所活動に関わって頂きました全ての方々へ、心より感謝御礼申し上げます。

今年は愛する「故郷」に目を向け、特に「郷土愛」に注力し１年間運動展開して参りました。全国的な地域課題でもある少子高齢化、人口減少は、我々の住むこの地域も影響を受け、解決していかなければならない課題のひとつであります。

我々が幼かった頃は、経済の成長期・ベビーブームと現在と相対する時代環境でございました。もちろん当時はＩＴやインフラ関係は今より発展しておらず、利便性という観念からは現在より不便だったのかもしれません。

しかしながら、まちはにぎわい、人々のコミュニケーションもいまより活発でした。世の中には古き良き伝統や人々のこころ、決して変えてはいけないかけがえのないものがございます。そうしたかけがえのない物までもが冒頭の地域問題が浮き彫りとなることに逆比例して、薄れてきている印象が見受けられます。

守るべきものと時代に則した変革の融合。今年一年の我々の活動ではとてもそのすべての課題を解決することは決してできませんでしたが、この今年一年の活動を契機に、これからの地域を導いてくべき会員ひとりひとりが引き続き、自覚し行動していくことで、１０年、２０年、１００年先も明るいこの「故郷」を創造して欲しいし、そうあるべきです。

今年度スローガン「ｓＵＰｐｏｒｔ～積極的に明日へ向かって～」は、２０１６年度と共に終わりではございますが、我々の地域へのそして仲間へのｓＵＰｐｏｒｔと、そして積極的な明日へ向かっての活動はまだまだ、これからであります。今後もＪＣはもちろん、全ての活動において共に突き進みましょう。

１年間 本当にありがとうございました。

総務委員・会員委員会

副理事長　宮　崎　敬　也

本年、副理事長の任を授かり総務委員会と会員委員会の担当をさせていただきました。基本理念『襷をつなげ！地域と共に夢溢れる「故郷」の未来に向かって』のもと、基本方針「信頼ある組織づくり・運営の確立」（総務委員会）並びに「全会員による拡大と会員個々の資質向上」（会員委員会）を一年の柱に活動した委員会を見守って参りました。

冷静沈着かつ論理的な對馬総務委員長、場を盛り上げて楽しい雰囲気を作ることに長けた對馬会員委員長、とお互い特徴的な個性や能力を持つお二人。この一年間、委員の方々と結束し、それぞれの担いとその目標に向けて邁進されたことにより、両委員長・両委員会の皆さまは一回りも二回りも大きくなられたと感じております。

青年会議所の役職は単年度ではありますが、その年々で培った力と紡いだ友情は一生のものです。これら得たものをぜひ活かし、益々ご活躍されますよう期待しております。

青少年委員会

副理事長　高　橋　美　奈

２０１６年度、青少年委員会の担当副理事長として、一年間活動して参りました。青少年委員会では、新規事業として、小学生を対象とした「ごしょりんクエスト」、高校生を対象とした「かだるべ五所川原」、継続事業として「わんぱく相撲」を開催いたしました。事業の開催へ向けて、地域の問題を抽出、今必要な事業内容とは何か意見を出し合い企画し、佐々木委員長のリーダーシップのもと、メンバー各々が自覚をもって活動している姿を強く感じる事が出来、結束力のある委員会だと感じた年となりました。結果として、沢山の壁を乗り越え、事業成功へと導かれたものと確信しております。もちろん、継続事業を開催する事も大切であり、大変な事ではございますが、目まぐるしい環境の変化や、今の地域の課題に目を向け、事業を開催し続けることが、地域に必要とされる団体として存続出来るのだと、改めて気づかされた一年となりました。

また今年は、東北ゼミナール委員会への出向の機会をいただき、そこでの出会いや学びも非常に良い刺激となりました。ゼミでの講座はもちろん、多くの人と話をすることで、先入観や、考え方、ＪＡＹＣＥＥとしての自覚など、自分自身の振り返りと、今後の活動の在り方を考えなおす時間となりました。

最後に、副理事長とゼミナール委員会出向の機会を与えてくださり、サポートしてくださった理事長はじめ理事の皆さま、ＬＯＭの皆さまに心から感謝するとともに、今年の経験を忘れず、次年度以降も地域の為に、五所川原青年会議所のメンバーとして自覚をもって活動することを約束し、２０１６年を締めくくりたいと思います。

一年間ありがとうございました。

まつり委員会

副理事長　楢　崎　誉　人

本年度、「まつり委員会」担当副理事長並びに「第４４回奥津軽虫と火まつり」実行委員長を務めさせて頂きました。優秀な田中委員長の舵取りの下、数多くの高校生の方々に御協力を頂きながら「奥津軽虫と火まつり親善大使」活動を行って参りました。例年よりもプログラムの回数が多く、委員会のメンバーには負担が大きかった事と思います。しかし、その甲斐がありまして、参加して下さった小学生の数も多く、素晴らしい事業だったと沢山か方々から声を掛けて頂きました。まつりの意義に触れ、学び、そして実際にまつりを体験した事によって、将来この中から「奥津軽虫と火まつり」の後継者が生まれる事を切に願います。「奥津軽虫と火まつり」実行委員会では、五所川原青年会議所メンバーは勿論の事、関係諸団体のご協力を賜り、無事に「第４４回奥津軽虫と火まつり」を終える事が出来ました。今年度の部会長のメンバーは優秀な人材ばかりで、トラブルが起きても臨機応変に対応してくれ、安心して任せることが出来ました。五所川原青年会議所の一大事業を終えそのプレッシャーから解き放たれた今、得も言えぬ達成感と安堵感に包まれております。

２０１６年度、至らぬ私を支えて下さった全ての皆様に感謝申し上げます。一年間誠に
ありがとうございました。ヤッサー！ヤッサー！！ヤッサー！！！

地域委員会

副理事長　上　見　一　嘉

２０１６年度地域委員会担当副理事長を務めさせていただきました。ＪＣ・行政・市民が三位一体となって協働する討議会や事業を遂行する委員会の副理事長という事で、どのように事業を開催し市民の皆様とともに歩みを進めて行けばよいのか、委員長にどのような伝え方をしていけばよいのか不安でした。

平山委員長は初委員長という事で議案書の書き方や予算書の書き方、事業の進め方など不慣れな点は多々ありましたが、とても根気強く取り組み委員会メンバーを引っ張って行ってくれました。また、委員会メンバーも平山委員長をサポートし、いろいろな意見を出しながらメンバー同士協力し合い事業を卒なくこなし成功に導いてくれました。私は陰で支える立場であり、委員会の方向性を修正し事業の成功やメンバー個人の成長を促す職務でありながら、委員長や委員会メンバーがあまりにも優秀であるため、逆にいろいろな事を気づかされたような気がしています。

この様な一年を振り返ると、平山委員長や委員会メンバーの皆さんとともに活動できたことは私の誇りだと思っております。一年間ありがとうございました。また、他委員会の皆様も地域委員会に力を貸していただき本当にありがとうございました。

ブロック大会特別室

ブロック大会特別室長　中　西　宗　興

２０１６年度ブロック大会特別室室長を務めさせていただきました。五所川原の地で開催される１０年ぶりの大会ということで、ＬＯＭ内に前回大会の経験者がほとんどいなかったということもあり、菊池担当理事とともに過去の大会の情報収集に始まり、実行委員会の組織づくり、県内各地会員会議所へのＰＲ活動などともに汗をかいて参りました。実際の大会においては、目まぐるしく変化する状況のなか、各部会長・メンバーの皆様に臨機応変の対応をしていただき、ありがたく頼もしい気持ちでいっぱいでした。苦しいことも多かったですが、関係した皆様のおかげで、楽しく乗り越え、大会を成功させることができたと思います。

心より御礼申し上げます。

委員会活動報告

総務委員会

構成メンバー

副理事長　　宮崎　敬也
委 員 長　　對馬　央也
副委員長　　秋元　　隆
委　　員　　小笠原崇文、山田　貴之、坂本　　光、平山　智久

基本方針

五所川原青年会議所は、愛すべき「故郷」の繁栄を築く為に「まちづくり・ひとづくり運動」を展開して参りました。今日まで先人が築き上げたこの愛すべき「故郷」に育まれてきた我々は､今まさに「故郷」を取り巻く人口減少・少子高齢化・経済の低迷等の諸問題に対し、責任ある青年世代として、次代へと襷を繋げるべく当会の積極的な運動を展開し、夢溢れる「故郷」の未来を実現していく必要があると考えます。

今年度、総務委員会では、執行部との連携を図りながら公益法人制度改革に則る当会の信頼ある組織づくりを確立すると共に、基本的な担いである新年祝賀会・総会・選考委員会委員選挙の開催、各委員会・特別室が担当する定例会の設営を行います。また、会員名簿・基本資料を作成し対外へ向けた情報公開、さらには、地域の皆様に広く認知して頂く為にホームページを活用した情報発信を行うことで、当会の積極的な運動を展開できる環境を整えて参ります。

総務委員会が、信頼ある組織づくり、総会の開催・定例会の設営、地域への情報発信を担い、当会の運動を「ＳＵＰＰＯＲＴ」することにより、次代へと襷を繋げ夢溢れる「故郷」の未来を実現できると確信し、一年間邁進して参ります。

事業報告

○新年祝賀会

開 催 日：平成２８年１月９日（土）
開催場所：プラザマリュウ五所川原
参加員数：１３７名（来賓４７名、来訪ＪＣ２６名、シニアクラブ３０名、会員３４名）
事業内容：日頃大変お世話になっている関係諸団体・諸先輩方に「公益社団法人五所川原青年会議所」の今年度役員並びに会員をお披露目し、新体制で行われる各委員会の事業にご理解とご協力をいただき、青年会議所運動が円滑に進められるきっかけ作りの場とした。

○２月通常総会

開 催 日：平成２８年２月２９日（月）
開催場所：ホテルサンルート五所川原
参加員数：３７名（正会員３０名、特別会員１名、仮入会員６名）

事業内容：２０１５年度の事業報告及び収支決算を承認し、２０１６年度の事業計画を推し進める為の士気の高揚を図った。

○７月定例会　役員選考委員会委員選挙

開 催 日：平成２８年７月１４日（木）

開催場所：五所川原市民学習情報センター

参加員数：３９名（正会員３８名、仮入会員１名）

事業内容：当会役員選任規定第３条４項に基づき、次年度役員を選考する役員選考委員会を設置する為役員選考委員を３名連記の無記名方式による選挙を行い、上位得票者５名を選出した。

○９月通常総会

開 催 日：平成２８年９月２９日（木）

開催場所：ホテルサンルート五所川原

参加員数：４１名（正会員３５名、特別会員１名、仮入会員５名）

事業内容：２０１７年度役員候補者を承認し、次年度の活動体制を整えた。

○１２月定例会 ２０１７年度事業計画説明会並びにＬＯＭ内褒賞授賞式

開 催 日：平成２８年１２月１８日（日）

開催場所：プラザマリュウ五所川原

参加員数：４０名（正会員３９名、仮入会員１名）事業内容：２０１７年度事業計画を会員へ周知し、２０１６年度の活動を全会員で総括した。また活動に貢献した会員を称え褒賞を授与し、次年度への意識の向上を図った。

かえりみて

信頼ある組織づくり、総会の開催・定例会の設営、地域への情報発信を担う総務委員会。五所川原青年会議所を縁の下から支え、当会の青年会議所運動が発信される。他委員会とは違い、事業内容が定められ、公益事業や交流事業を行わない極めて事務的な委員会であり、その活動内容は総務委員長となることで初めて知るものであった。今年度、自分の職責を全うすることはもちろんだが、変え辛いであろう「総務色」にどれほど挑戦することが出来るか、そのような動機付けを行い今年度が始まった。

総務が主管する総会・定例会にどのような「隙間」があるかを見極めながら議案作成に取り組む中、７月定例会「役員選考委員会委員選挙」のセミナー・開票方法、９月通常総会後の「決意表明会」の内容には挑戦する部分があると思い、理事会の奮闘を経て開催する事が出来た。そして、当会の最後を締め括る１２月定例会では各方面から様々なアイディアを頂き、委員会の枠を超えた全委員会による定例会として成功を収めることが出来ました。

この挑戦の裏には委員の存在が不可欠でした。毎月の設営と毎月の委員会。委員会では議案内容を相談し、自信を付けて理事会に臨む。そんな我が儘な自分を支えて頂き誠に感謝いたします。当会を支える総務委員会は、総務委員によって支えられているという面白い構図を垣間見えた一年となりました。

役員選考委員会委員選挙
JCI

公益社団法人 五所川原青年会議所
通常総会
JCI

JCI

公益社団法人 五所川原青年会議所
決意表明会

新　年　祝　賀　会
JCI

会員委員会

構成メンバー

副理事長　　宮崎　敬也
委 員 長　　對馬　幸征
副委員長　　小野　顕成
委　　員　　葛西　良樹、木村健太郎、小枝　孝太、吉田　博貴、成田　若菜　川村、優弥
　　福士　裕朗、石川　恭裕

基本方針

我々の住み暮らすこの愛すべき「故郷」の「明るい豊かな社会」の実現の為に、青年会議所運動を展開する際、運動の大きさと会員数は深い関係にあります。そうした中、五所川原青年会議所は団塊ジュニア世代の卒業が近年顕著な傾向を辿り、会員拡大は急務であります。また、会員の増加に努めるのみではなく､個々の資質を磨き品格ある人材育成を図りながら､会員相互の協調性を高めて夢で溢れた「故郷」であり続けるよう、未来を担う人たちへ襷を繋げなければなりません。

まずは、日本青年会議所の会員拡大プログラムを通じて拡大の意義や目的を会員拡大に反映できるよう会員委員会が学びます。そして、会員全体に共有し西北五地域の２０歳から４０歳までの青年を対象に異業種交流会を開催し拡大を進めます。また、青年としての英知の向上を図る機会を設けて会員個々の資質向上に努め、気概ある青年団体を目指します。更に、新入会員や当会の先輩方を交えて親睦を深めて頂く会員交流会を開催し、当会全体の活性化に繋がるように努めて参ります。

「会員拡大｣､「資質向上｣､「会員交流」の各種会員拡大事業を通じて、巡り合せた一生涯の仲間と意義を共有し青年会議所運動を展開することで、地域を背負って立つという気概を高め、夢に溢れた地域を目指し、一年間邁進して参ります。

事業報告

○会員拡大事業

開 催 日：平成２８年３月１～３１日
開催場所：事務局
事業内容：前年度から引き継いだ会員候補者リストの精査し、２０１６年度版を作成して会員の皆様と候補者との関係性を調査した結果に基づいて拡大事業の基盤を作成致しました。

○新入会員セミナー

開 催 日：第１回目平成２８年３月２２日　第２回目８月１０日
開催場所：養老乃瀧五所川原店
参加員数：第１回目２５名　第２回目２９名
事業内容：新入会員の方々に青年会議所の概要を理解して頂き、青年会議所での自分のあり方・今後の目的を持って活動して頂くきかっけつくりにします。１回目は委員長と三役との対話、２回目は各委員会紹介を開催致しました。

○異業種交流会

開 催 日：平成２８年４月２２日

開催場所：イズミボーリング　養老乃瀧五所川原店

参加員数：対内２１名　対外１２名　合計３３名

事業内容：異業種交流会（ボーリング大会や懇親会）を通してメンバーとの交流を深めると共に青年会議所の魅力を知ってもらい新入会員の増進に繋がることを目指し開催致しました。

○資質向上に繋がる５月定例会～これであなたも１ＵＰ～

開 催 日：平成２８年５月１９日

開催場所：五所川原市民学習情報センター

参加員数：対内３５名　対外１名　合計３６名

事業内容：青年会議所会員として、一社会人としてビジネスや交流を図る場面で「安心」や「信頼」を高めるためにもビジネスマナー（基礎）成長研修を通して、あらゆる場面でのビジネスマナーをしっかり習得していただき、個々の資質を高めることを目的として実施致しました。
①挨拶のしかた　②名刺交換のしかた　③常識問題

○ＯＢ交流会

開 催 日：平成２８年５月２６日

開催場所：五所川原温泉ホテル

参加員数：現役２０名　ＯＢ１１名

事業内容：五所川原ＪＣのシニアクラブの先輩方々と心を込めて接する事で情報の共有や親睦を深めることを目的として実施致しました。
①現役・新入会員自己紹介　②麻雀・トランプ・ゲーム

○卒業式

開催日　　：平成２８年１２月１８日

開催場所：プラザマリュウ五所川原

参加員数：３４名　卒業生７名

事業内容：今までご活躍された卒業生達のＪＣ活動を強く心に刻んで、旅立ちという名で送り出す卒業式を開式致しました。

○クリスマス家族交流会

開 催 日：平成２８年１２月１８日

開催場所：プラザマリュウ五所川原

参加員数：３６名　家族（奥様お子様３５名）

事業内容：家族交流会ということで、日頃からかげで支えて下さっている家族の方に感謝を込めてのイベントと会員家族同士の交流を目的として開催致しました。

青少年委員会

構成メンバー

副理事長　　高橋　美奈
委 員 長　　佐々木篤史
副委員長　　工藤　智哉
委　　員　　松橋　康成、成田　和代、高橋　尚裕、近藤　陽介、森下　洋光、石田　　潤
　　高谷　　怜

基本方針

地域にとって「宝物」である子供達。この子供達を取り巻く環境は年々良くなっているとは決して言えず、人と人との繋がりや歴史・伝統、地域への興味も希薄となり「故郷」を愛する心も失われつつあります。「故郷」を愛する心を育てる為には教育機関や家庭のみならず、我々地域の大人も責任を持ち、その愛する心を芽生えさせ、また、愛すべき「故郷」の為に、未来のこの地域を牽引できる「青少年」を育成する必要があると考えます。

今年度、青少年委員会では、子供たちにこの地域の魅力を通して「故郷」の持つ素晴らしさを学び、成人してもこの地を愛し､永住したいと思う心を育くませることを目的とした事業を開催します。また、子供達に大人への大きな第一歩を踏み出してもらう為に社会参加の意義を伝える事業を開催し､「故郷」の未来を心から見つめることができる青少年を育成します。更には「わんぱく相撲」を開催することにより青少年の健全なる心身の育成をして参ります。

「宝物」である子供達が､「故郷」に興味を持つことで「故郷」を愛し、そしてこの愛すべき「故郷」の未来を心から見つめることにより、子供達は「故郷の宝」として大きな輝きを放ち地域を牽引する担い手として成長するものと確信致します。

事業報告

○第３２回わんぱく相撲津軽地区大会

開 催 日：平成２８年５月１日（日）
開催場所：青森県武道館
参加員数：大会参加者７３名（若の里相撲体験教室のみ５名　オープン大会４５名　地区大会３３名）
　　保 護 者・観覧者３４４名　県相撲連盟中弘支部２０名　若の里・協力者４名　県立弘前実業高等学校相撲部４名　看護師２名　弘前青年会議所２７名　会員２７名　合計５０１名
事業内容：子ども達が第３２回わんぱく相撲全国大会の出場権をかけた競技を行うとともに、心身を鍛練した。また、相撲に接してもらうために若の里相撲体験教室やオープン大会が行われた。公益社団法人弘前青年会議所との共同開催。

○第３２回わんぱく相撲全国大会

開 催 日：平成２８年７月３０日（土）、３１日（日）
開催場所：東京都　両国国技館

参加員数：対外約２，０００名、会員２名、合計約２，０００名
事業内容：各地区大会を勝ち抜いた子ども達が、第３２回わんぱく相撲全国大会において日頃の鍛練の成果を存分に発揮した。公益社団法人東京青年会議所が主催。

○８月定例会　ごしょりんクエスト
開 催 日：平成２８年８月１７日（水）～１８日（木）
開催場所：五所川原市内（金木・市浦地区含む）
参加員数：会員３７名　小学生３１名　合計６８名
事業内容：地図とヒントを頼りに五所川原にある郷土に関する場所を子供達自らが探し求めることにより、記憶に残る郷土愛を育くむことを目的とし行われた。

○１０月定例会 かだるべ五所川原
開催日：平成２８年１０月２４日（月）
開催場所：五所川原市民学習情報センター
参加員数：会員３５名　高校生３３名　市議会議員８名　市役所職員１１名　講師１名　大学生２名　合計９０名
事業内容：２０年後の自分自身と五所川原について高校生と大人がワールドカフェ方式で対話を行うことで、高校生自身が様々な角度から五所川原そして自分自身の未来を見つめ直し、「故郷」に興味を抱き愛する心を芽生えさせることを目的とし行われた。

かえりみて

今年度、青少年委員会では、わんぱく相撲・ごしょりんクエスト・かだるべ五所川原の三本の矢で青少年事業を行って参りました。

わんぱく相撲津軽地区大会では弘前ＪＣとの協同開催で行われ、事業開催までに何度も打合せを行うことによりＬＯＭを越えた友情も芽生え、これにより若の里関の相撲教室など、例年にない参加者・観客のもと、わんぱく相撲を開催することができました。

ごしょりんクエストでは初事業ということで実施まで山あり谷あり様々な修練がありましたが委員会・理事会で協議を重ねることにより個人的にはとても良い事業になったと感じております。びしょ濡れになりながらも一生懸命郷土にあるものを探した初日の五所川原地区クエスト。一転、暑い中ほとんど歩いたことが無い場所で探し求めた金木地区クエスト。住民の優しさが伝わった市浦地区クエスト。どの地区も私にとってとても印象深く、また、子供達にとっても同じように心に残る郷土として育まれたと思っています。

かだるべ五所川原では市内の高校生に自分自身と五所川原の未来について考えてもらいました。この事業では五所川原市議会議員・五所川原市役所職員の協力もあり高校生達から良かったと多数の声を頂くことができました。一方、私たち大人も高校生の率直な思いを知ることができ、今後のＪＣ活動へのヒントを得ることが出来たのではないかと感じております。

今年度の青少年事業は新しい内容が多く、皆様には沢山の心配をおかけしました。しかしながら、実施に向けて委員のみんなが協力して頂いたおかげでどれも印象に残るすばらしい事業になったと感じて

おります。また、入会間もないメンバーが多い委員会でしたが、最後にはみんなそれぞれ仕事をこなし、成長する姿を見ることができたのも委員長としてとてもうれしく感じております。

最後に、様々な意見を下さいました理事の皆様、事業に協力して頂きましたメンバーの皆様、適切な指導を下さいました高橋副理事長、最後まで私について来てくれた委員会の皆様、本当に一年間ありがとうございました。

まつり委員会

構成メンバー

副理事長　　楢崎　誉人
委 員 長　　田中　宏明
副委員長　　下川原伸彦
委　　員　　秋田　　純、大坂谷　努、豊澤　孝行、鎌田　智行

基本方針

愛しく誇れる私達の「故郷」、奥津軽。「天下泰平」「国家安泰」「五穀豊穣」「悪疫退散」の祈りを込めて、地域の皆様と協力して行ってきた「奥津軽虫と火まつり」も本年度で４４回を迎えます。伝統行事として定着したこのまつりも、観客数が徐々に増える一方、年々、参加団体が減少し、後継者不足等の問題が懸念されております。先人達から伝承を続け、長きに渡り行われてきたこのまつりの燈火を引き継いでいく為に、関係諸団体と協力し、持続的な運動展開をしなければなりません。

その為には、これまで行われてきた親善大使活動を継続し、高校生と大学生を親善大使に認定する定例会を開催し、親善大使による地域の皆様へのまつりの周知活動と、小学生へのまつりの意義の伝承を行います。そして、この活動を通じて共感を得た方達が「奥津軽虫と火まつり」に有意義に参加できる環境を整えて参ります。また、節目となる「第５０回奥津軽虫と火まつり」を念頭に置き、まつりの諸問題を解決する方法を考え、関係諸団体と協力し合いながら持続的な運動展開を行って参ります。

幾度となく天災を「不撓不屈」の精神で乗り越えてきた先人達。この先人達より受け継がれてきた「虫送り」の燈火を、地域の宝である子供達に伝承する事が、我々の願いである「明るい豊かな社会の実現」、そしてこの地域の「弥栄」に繋がるものと確信し一年間邁進して参ります。

事業報告

○４月公開定例会「奥津軽虫と火まつり親善大使登録会」

開 催 日：平成２８年４月２４日（日）
開催場所：五所川原市中央公民館　１階大ホール
参加員数：親善大使登録者（五農１４、商業７、一高１８、ポリテク１６）計４校５５名の内、参加者（五農７、商業７、一高１８、ポリテク０）計３校３２名。
事業内容：１時間半の登録会の前半で、各種説明を配布資料・ＰＰ・ＰＶで行い、親善大使活動やまつりの歴史、まつりの様子を学んで頂いた。後半は小松明の製作体験を通して、まつりの一部を肌で感じて頂いた。

○奥津軽虫と火まつり親善大使の活動

開催日：平成２８年４月２４日（日）～６月１８日（土）
開催場所：五所川原市（ＴＶ 出演は青森市）
参加員数：・親善大使登録者４校５５名が、実施期間中に参加した人数は延べ１６８名、その内、親善大使認定者は（五農９、商業７、一高１８、ポリテク１６）４校５０名。

・紙芝居事業参加小学生（五小４２、南小４４、中央小５５、栄小７１、三輪小４１、松島小３１、市浦小１１）７校２９５名・ＪＣ会員（修行１２、紙芝居５５、松明製作－、ラジオ６、市長表敬６、祈願串５、わっち４、まつりスタッフ－、あっぷるワイド６）延べ９４名。※松明製作とまつりスタッフを除く。・体内９４名、対外４６３名、計５５７名（延べ人数）

事業内容：メイン活動の準備としての「修行」、メイン活動は、親善大使と小学生へまつりの意義の伝承、地域住民へまつりのＰＲを目的とした「紙芝居」「松明製作」「ラジオ出演」「市長表敬訪問」「祈願串事前頒布協力」「テレビ出演」「まつり当日のお手伝い」を、４月定例会からまつり当日までの期間で行った。

○６月公開定例会「奥津軽虫と火まつり」

開 催 日：平成２８年６月１８日（土）

開催場所：五所川原市内（大町～岩木川河川敷）

参加員数：会員３８名　観覧者５，０００名　合計５，０３８名

事業内容：ふるさとの伝統行事として定着し、当会が主催する虫送りまつりである「第４４回奥津軽虫と火まつり」を開催した。立佞武多の館前から出発した各団体は、虫や囃子、松明とともに河原へ向かい練り歩き、河原では、神職による神事と大虫昇天の儀や一般参加者による祈願串のお焚き上げが行われ、最後はふるさとの幸せを願い弥栄三唱で締めくくられ、まつりは滞りなく終えられました。

かえりみて

時が経つのが早く感じるこの頃、私も３６才になり四捨五入すれば４０才であります。まつり委員会の活動は６月までと短く、しかし、凝縮された活動を今振り返れば、苦労はなぜか記憶に薄く、仲間との思い出や、紙芝居や松明製作をする高校生や小学生の様子など、良い事の方が覚えている気がします。おそらく私も善人なのでしょう。

さて、私のＰＣメモに２７年１２月２２日に第２回委員会を行ったとあるので、委員会活動は１２月から始まり、４月定例会「親善大使登録会」ではスクリーンが見えない、音声が聞こえないと、出だしから委員ともども反省した次第です。続く「親善大使活動」はプログラム数、参加校数ともに多く、委員は週３回ペースのスケジュールを見ても「やるしかねべ」と言ってくれました。実際は予定がずれて期間後半に週５ペース位になり、松明製作期間と重なっている中でも協力してくれました。私が決断できないでいる時も後押ししてくれました。委員会打合せでは、私がお題を出せば委員がいい方法を考えてくれました。今年のまつり委員会はいつもこのようなスタイルでした。

松明製作では、「仕事で８時からしか来れないが毎日来る」と言って毎日来た秋田純、いつも私より早く来る豊澤孝行、など！。たくさんの人に協力してもらいました。また、松明製作中に高校生と紙芝居練習した事も良い思い出です。

まつり本番の数日前、松明製作と親善大使活動もほぼ終わり、製作小屋で委員と「終わってまるな」と話した事が感慨深く、おそらく忘れないでしょう。

まつり当日は、禊も経験できすっきりし、本当に汚れが取れた気がしました。まつりのクライマック

ス、燃える松明、大虫昇天、花火、見入る観客、親善大使、小学生、ＪＣの仲間、そして委員みんなと強く握手した事。思い出せば今でもその時の感情が蘇ります。

キリがないので最後に、「みなさん、ありがとうございました！」

そしてもう一言、「１６まつり委員会、これからもよろしく」

地域委員会

構成メンバー

副理事長　上見　一嘉
委 員 長　平山　稔洋
副委員長　平田　浩介
委　　員　高松　一政、原田美由紀、外崎　　紳、花田憲一朗、山下　高広　境谷　幸人
　　神　　康知

基本方針

我々、五所川原青年会議所の先輩方は、「修練」「奉仕」「友情」の三信条を基に、「明るい豊かな社会」の実現を目指し、地域振興運動を展開して参りました。また、地域のまちづくりには市民同士の信頼関係・交流等、地域の問題に積極的に取り組む市民の力が必要不可欠です。そこで、市民の力を引き出す為に市民・行政・青年会議所が一体となり、三者が同じベクトルに向け、市民意識の向上に向けた運動を展開していかなければなりません。

その為には、２０１２年度から行われた市民の生の声を市政に届けることのできる「市民討議会」を今年度も開催し、地域の発展に繋がる可能性を見出す為に真剣に議論を重ね、市民参画意識を高められるよう市民同士が共感・共有できる場を作り上げて参ります。また、２０１３年度より設立された、市民と青年会議所が協働で行う「らぶ・ごしょがわら実行委員会」を継続し、市民が率先して運動を展開できるよう努めて参ります。

地域のまちづくりを市民団体・行政と協働で行うことで、地域を支えているという当事者意識を持つことができ、時には大きな運動に発展していくものだと考えます。そして、「明るい豊かな社会」の実現、夢溢れる「故郷」の創造に繋がることと信じ、一年間邁進して参ります。

事業報告

○らぶ・ごしょがわら実行委員会

開 催 日：通年
開催場所：五所川原市民情報学習センター・五所川原中央公民館
参加員数：対外平均１０名、対内７名、合計１７名
事業内容：本年は「ごしょりん健康体操推進事業」、「パパハグへの出店」、「青森放送わがまちＣＭ大賞への作品出展」、「五所川原産業まつりへのらぶ・ごしょ弁当製作販売」「食と笑顔の健康セミナー」を行った。

○五所川原市民討議会

開催日：平成２８年７月２３日（土）
開催場所：五所川原市民情報学習センター
参加員数：対外３５名、対内２１名、合計５６名
事業内容：無作為に抽出された１５００名の市民の中から３６名の参加承諾を得て、事前辞退者を含め

当日２６名で、「子どもからお年寄りまで活き活きと暮らせる五所川原を考えよう！～世代を超えた絆を深めるために～」をテーマとしてグループワークをしていただきました。

○五所川原市民討議会実行事業 ～津軽のかまりっこ～

開 催 日：平成２８年１０月１６日（日）
開催場所：立佞武多の館広場（軽トラ市内）
参加員数：対外１０４名程度、対内１６名、合計１２０名
事業内容：７月に開催された市民討議会での意見を基にした事業「津軽のかまりっこ」と題して、軽トラ市の会場をお借りして、１．立佞武多囃子講座　２．方言集　３．郷土料理ふるまい　４．昔遊びのブースを設置し、世代間交流を目的として行いました。

○１１月公開定例会「食と笑顔の健康セミナー」

開催日：平成２８年１１月１３日（日）
開催場所：五所川原中央公民館大ホール・調理室
参加員数：対外２２名、対内２８名、合計５０名
事業内容：昨年の市民討議会の意見を基に企画した公開定例会。昨年の大テーマが人口減少としておりその中で健康に関する意見が多く出されましたので「食と笑顔の健康セミナー」を開催しました。第１部～食と笑顔の健康セミナー　第２部～減塩食料理教室、健康を意識していただくことを目的とした事業となりました。

○市民討議会報告書作成

報 告 者：市民討議会参加者２６部、平井先生１部、企画課２部、秘書課１部、市議会３０部
青年会議所２０部　合計８０部

かえりみて

今年度、当委員会はらぶ・ごしょがわら実行委員会の方向性を変えるべく寄付金から事業費の運営、市民討議会の意見を年内に事業化すること、を新たなこととして活動して参りました。

らぶ・ごしょがわら実行委員会は、パパハグ・らぶごしょ弁当販売・ごしょりん健康体操推進事業・CM 大賞・食と笑顔の健康セミナーを事業として活動して参りました。各事業部会長を筆頭に委員全員で連携して行えたこと思います。市民の意見が事業化できる団体ですので継続していただきたいと思います。

五所川原市民討議会では、平井先生と連携しながら市民参画意識・当事者意識向上を目的としました。また、もう一つの目的として年内に具現化し事業化することでした。討議会を通して今後のまちづくりに対する意識が変わった方変わらなかった方といましたが、このような市民参加型の事業に参加したいという回答が９割を超えていましたので、討議会開催の意義が果たされたものと思います。

今年度初めての試みである五所川原市民討議会実行事業を開催しました。市民討議会の意見を基に企画したものでありましたが、討議会参加者が４名協力いただき、皆さんからは参加人数が少ないと思われたかもしれませんが、私個人的には満足しておりました。討議会で出された意見を事業化したくさん

の人に集まってもらい楽しく事業ができたことに感謝しております。

１１月公開定例会は昨年の討議会の意見を基にした事業ですが、とにかく時間と意見が多く正直逃げ出したくなる事業でした。ご協力いただきました関係者の皆様本当にありがとうございました。思えば、初委員会開催から数か月間は何をやっているのかわからない委員会だったと思います。何をやっていいかわかりませんでした。そんな中、プライベートも返上して市民討議会の１,５００通の封筒詰め作業を皆で協力して行った辺りから、委員会の結束が高まっていったように思います。

地域委員会の皆様、討議会後の２つの事業企画・立案から事業開催までご迷惑おかけしました。そして、最後の最後までも心配をかけてしまいこのような便りのない委員長で申し訳ございませんでした。こんな私についてきてくださり本当に感謝しております。上見副理事長、ご迷惑ばかりおかけしておりました。最後まで本当にありがとうございました。

また、その他会員の皆様、地域委員会にご協力いただきありがとうございました。

最初から不安で最後まで不安でしたが、とても貴重で修練に相応しい１年間でした。私を委員長として声をかけていただいた今理事長、ありがとうございました。

ブロック大会特別室

構成メンバー

室　　長　　中西　宗興
担当理事　　菊池　孝一

基本方針

今年度、青森ブロック協議会主催で行われる、第４６回青森ブロック大会が五所川原青年会議所主管で開催されます。この大会を機に、県内各地会員会議所の皆様に奥津軽五所川原の魅力をメンバー一同で発信しつつ、おもてなしの心でお迎えをし、青森ブロック協議会と連携・協力していくとともに、この大会を通して、当会メンバーに新たな気づきを得てもらい、ＪＣ運動に対する参画意識を高めていかなければなりません。

まずは、当会メンバー一丸となって大会構築をしていく為に、実行委員会を組織、運営致します。そして、大会の概要・目的の周知を図り、大会成功へと導く為の定例会を開催致します。さらに、各地会員会議所の皆様に一人でも多く参加頂けるように、五所川原の文化、観光、自然、精神性などの魅力を発信するＰＲを行います。また、青森ブロック協議会と当会との情報を共有し、連携、協力を確実にし、大会の円滑な運営をして頂く為の一助となれるよう、全力で取り組んで参ります。

メンバーが一丸となり、この大会を成功に収めたのち、一人ひとりの意識と資質が向上することで、当会のＪＣ運動がより活発化し、地域発展へと寄与することが、この「故郷」の未来が「明るい豊かな社会」の実現へと繋がっていくと確信致します。

事業報告

○３月定例会

開催日：平成２８年３月１７日（木）
開催場所：五所川原市民学習情報センター　２Ｆ　視聴覚室
参加員数：対内３３名　対外１名　合計３４名
事業内容：①青森ブロック協議会の説明、青森ブロック大会の概要、目的を説明。
②五所川原青年会議所ＯＢの今広樹先輩の講話。
③グループディスカッションを行う。
実行委員会の部会（３グループ）に分け、シュプレヒコールを全会員で考える。

○青森ブロック大会実行委員会設立

開催日：平成２８年２月２３日（火）・５月１０日（火）・６月２８日（火）
開催場所：五所川原市民情報学習センター　２Ｆ　視聴覚室
参加員数：会員７６名
事業内容：実行委員会では部会を設け、概要説明、各部会会議（総務、大懇親会、魅力発信）、全体予算計画、最終打合せを行います。

○第４６回青森ブロック大会大懇親会及びＰＲ活動

ＰＲ活動：平成２８年４月～５月

大懇親会開催日：平成２８年７月２日（土）

開催場所：立佞武多の館　１Ｆホール

参加員数：県内各地会員会議所会員及び五所川原ＪＣシニアクラブ１４７名（登録３６１名）

事業内容：各地会員会議所へＰＲ（十和田・黒石・三沢・青森・弘前・八戸・むつ）大懇親会を通して、五所川原の魅力を発信するとともに、参加した県内各地の会員会議所会員にＬＯＭの枠を超えた交流の機会を提供する。

かえりみて

７月まで頑張ればよいと言われ受けた青森ブロック大会の実行委員長。準備の着手が遅くなり早々に理事長にご心配おかけし、申し訳ございませんでした。第１回実行委員会の際にはインフルエンザにかかってしまい、中西室長にもご迷惑をお掛けしてしまいました。３月定例会では準備不足により皆様にご迷惑をお掛けしました。こんな迷惑ばかりかけている実行委員長を宮崎部会長、島村部会長、高松部会長が支えてくれて大会準備をスムーズに進めることができました。部会長の皆様、本当にありがとうございました。県内各地をまわったＰＲ。忙しい中、一緒に回っていただいた皆様、ありがとうございました。緊張して嫌だったＰＲが楽しくなってしまいました。各地会員会議所の皆様に五所川原の魅力を発信できたと思います。

ブロック大会当日、雨が降り、外での開催ができなくなってからの対応、準備、そして設えの五所川原 JC の団結力はすばらしく、頼もしく思えました。外とは違い狭い空間での大懇親会でしたが、立佞武多や高校生による三味線などで盛り上がりました。県内各地会員会議所の皆様へ最高のおもてなしができたと思っております。また、皆様より素晴らしい大会でしたとの声掛けを頂き、嬉しく思います。今理事長が掲げた、県内各地会員会議所の皆様が「五所川原大会に来て良かった」と感じていただけた大会になったと思います。第４６回青森ブロック大会の大懇親会を担当させてもらい、貴重な経験をさせてもらいありがとうございました。ブロック大会に協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。

青森ブロック大会 in 奥津軽五所川原 大懇親会

JCI

2016年度 （公社）五所川原青年会議所 収支決算書

2016年 1月 1日～2016年12月31日
（単位 円）

科　　目	2016年度決算	2016年度予算	差異	備　　考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①基本財産運用収入	292	1,000	−708	
②特定資産運用収入	460	1,000	−540	
③入会金収入	320,000	0	320,000	
④会費収入	6,630,000	6,360,000	270,000	
正会員会費収入	5,340,000	5,400,000	−60,000	
新加入会員会費収入	690,000	0	690,000	
特別会員会費収入	600,000	960,000	−360,000	
賛助会員会費収入	0	0	0	
⑤事業収入	4,021,000	4,800,000	−779,000	
登録料収入	92,000	0	92,000	
懇親会費収益	0	0	0	
広告料収益	3,929,000	3,800,000	129,000	
業務受託収入	0	0	0	
預り金収入	0	0	0	
雑収入	0	1,000,000	−1,000,000	
⑥補助金等収入	317,200	50,000	267,200	
受取民間補助金収入	60,000	50,000	10,000	
受取地方公共団体助成金	232,000	0	232,000	
受取民間助成金収入	25,200	0	25,200	
⑦寄付金収入	3,727	30,000	−26,273	
受取寄付金収入	3,727	30,000	−26,273	
⑧雑収入	348,363	1,000	347,363	
受取利息収入	196	1,000	−804	
その他雑収入	348,167	0	348,167	
事業活動収入計	11,641,042	11,243,000	398,042	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	5,471,265	7,318,000	−1,846,735	
総務委員会	238,638	335,000	−96,362	
青少年委員会	711,997	793,000	−81,003	
まつり委員会	3,862,435	4,081,000	−218,565	
地域委員会	518,937	880,000	−361,063	
会員委員会	69,146	229,000	−159,854	
会員拡大室	0	0	0	
ブロック大会特別室	70,112	1,000,000	−929,888	
事業会計支出	0	0	0	
②管理費	3,562,521	3,609,281	−46,760	
給与手当	1,148,908	1,200,000	−51,092	
退職給付費用	36,000	36,000	0	
福利厚生費	69,577	70,000	−423	
会議費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
通信運搬費	244,130	225,224	18,906	
消耗什器備品費	0	0	0	
消耗品費	85,607	151,000	−65,393	
会員支給品費	51,388	35,000	16,388	
修繕費	0	0	0	
印刷製本費	340,907	160,000	180,907	
燃料費	0	0	0	
水道光熱費	95,412	95,412	0	
貸借料	689,688	686,940	2,748	
保険料	0	0	0	
諸謝金	0	16,705	−16,705	
租税公課	1,550	3,000	−1,450	
渉外費	181,313	300,000	−118,687	
委託費	427,213	440,000	−12,787	
減価償却費	21,687	40,000	−18,313	
衛生費	0	0	0	
支払負担金	0	0	0	
支払寄付金	60,000	0	60,000	
支払利息	0	0	0	
雑費	109,141	150,000	−40,859	
③負担金	1,160,150	958,500	201,650	
国際青年会議所負担金	78,375	61,875	16,500	
日本青年会議所負担金	829,000	679,500	149,500	
国際協力資金	104,025	82,125	21,900	
We Believe購読料	148,750	135,000	13,750	
事業活動支出計	10,193,936	11,885,781	−1,691,845	
事業活動収支差額	1,447,106	−642,781	2,089,887	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入	0	0	0	
2. 投資活動支出	0	0	0	
①特定資産取得支出	0	0	0	
退職給付引当資産取得支出	0	0	0	
②固定資産取得支出	0	0	0	
什器備品取得支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
Ⅲ 財政活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
当期収支差額	1,447,106	−642,781	2,089,887	
前期繰越収支差額	19,059,440	19,059,440	0	
次期繰越収支差額	20,506,546	18,433,364	2,073,182	

2016年度 公益社団法人 五所川原青年会議所 正味財産増減計算書内訳書
2016年1月1日から2016年12月31日まで

（単位 円）

科目名	公益目的事業会計					収益事業等会計					法人会計	内部取引消去	合計
	地域青少年育成事業	虫と火まつり継続事業	地域の健全な発展	共通	小計	会員交流親睦事業	会員拡大・研修事業	JC発信運動事業	共通	小計			
	公1	公2	公3			他1	他2	他3					
①基本財産運用益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**292**	**0**	**292**
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	292	0	292
②特定資産運用益	**0**	**137**	**0**	**0**	**137**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**323**	**0**	**460**
特定資産受取利息	0	137	0	0	137	0	0	0	0	0	323	0	460
特定資産受取配当金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取賃貸料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③受取入会金	**0**	**0**	**0**	**96,000**	**96,000**	**0**	**0**	**0**	**96,000**	**96,000**	**128,000**	**0**	**320,000**
受取入会金	0	0	0	96,000	96,000	0	0	0	96,000	96,000	128,000	0	320,000
④受取会費	**0**	**0**	**0**	**1,989,000**	**1,989,000**	**0**	**0**	**0**	**1,989,000**	**1,989,000**	**2,652,000**	**0**	**6,630,000**
正会員会費	0	0	0	1,602,000	1,602,000	0	0	0	1,602,000	1,602,000	2,136,000	0	5,340,000
特別会員会費	0	0	0	180,000	180,000	0	0	0	180,000	180,000	240,000	0	600,000
賛助会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新入会員会費	0	0	0	207,000	207,000	0	0	0	207,000	207,000	276,000	0	690,000
⑤事業収益	**92,000**	**3,929,000**	**0**	**0**	**4,021,000**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**4,021,000**
登録料収益	92,000	0	0	0	92,000	0	0	0	0	0	0	0	92,000
懇親会費収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広告料収益	0	3,929,000	0	0	3,929,000	0	0	0	0	0	0	0	3,929,000
販売収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務局受託収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥受取補助金等	**232,000**	**25,200**	**0**	**0**	**257,200**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**60,000**	**0**	**317,200**
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体補助金	232,000	0	0	0	232,000	0	0	0	0	0	0	0	232,000
受取民間補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60,000	0	60,000
受取国庫助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間助成金	0	25,200	0	0	25,200	0	0	0	0	0	0	0	25,200
受取補助金等振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦受取負担金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取負担金振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧受取寄付金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**3,727**	**0**	**3,727**
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,727	0	3,727
募金収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨雑収益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**348,363**	**0**	**348,363**
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	196	0	196
有価証券運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	348,167	0	348,167
経常収益計	**324,000**	**3,954,337**	**0**	**2,085,000**	**6,363,337**	**0**	**0**	**0**	**2,085,000**	**2,085,000**	**3,192,705**	**0**	**11,641,042**
①事業費	**626,231**	**3,862,435**	**518,937**	**1,605,293**	**6,612,896**	**249,048**	**78,968**	**49,880**	**963,174**	**1,341,070**	**0**	**0**	**7,953,966**
事業費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当	0	0	0	574,454	574,454	0	0	0	344,672	344,672	0	0	919,126
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	34,789	34,789	0	0	0	20,873	20,873	0	0	55,662
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	204,300	750	0	0	205,050	0	0	0	0	0	0	0	205,050
通信運搬費	28,124	83,076	19,916	122,065	253,181	17,154	11,270	0	73,239	101,663	0	0	354,844
消耗什器備品費	0	20,896	0	0	20,896	0	0	0	0	0	0	0	20,896
消耗品費	29,158	852,438	6,722	42,804	931,122	3,570	3,450	0	25,682	32,702	0	0	963,824
会員支給品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	15,522	122,786	16,310	170,454	325,072	29,716	13,140	0	102,272	145,128	0	0	470,200
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
燃料費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
光熱水料費	0	0	13,000	47,706	60,706	0	0	0	28,624	28,624	0	0	89,330
賃借料	60,900	99,948	27,060	344,844	532,752	32,600	11,600	0	206,906	251,106	0	0	783,858
保険料	18,427	214,080	9,660	0	242,167	0	0	0	0	0	0	0	242,167
諸謝金	0	200,000	44,548	0	244,548	0	0	0	0	0	0	0	244,548
租税公課	0	11,400	800	0	12,200	0	400	200	0	600	0	0	12,800
渉外費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
委託費	158,760	1,943,528	126,420	213,606	2,442,314	97,800	35,784	49,680	128,164	311,428	0	0	2,753,742
支払寄付金	10,000	0	191,909	0	201,909	0	0	0	0	0	0	0	201,909
衛生費	0	152,439	0	0	152,439	0	0	0	0	0	0	0	152,439
雑費	61,040	136,094	62,592	54,571	314,297	68,208	3,324	0	32,742	104,274	0	0	418,571
支払負担金	40,000	25,000	0	0	65,000	0	0	0	0	0	0	0	65,000
②管理費											**2,239,970**	**0**	**2,239,970**
給料手当											229,782	0	229,782
退職給付費用											36,000	0	36,000
福利厚生費											13,915	0	13,915
会議費											0	0	0
旅費交通費											6,600	0	6,600
通信運搬費											55,180	0	55,180
消耗什器備品費											10,260	0	10,260
消耗品費											28,263	0	28,263
会員支給品費											51,388	0	51,388
修繕費											0	0	0

印刷製本費											74,801	0	74,801
減価償却費											21,687	0	21,687
燃料費											0	0	0
光熱水料費											19,082	0	19,082
賃借料											144,238	0	144,238
保険料											0	0	0
諸謝金											16,705	0	16,705
租税公課											1,750	0	1,750
渉外費											181,313	0	181,313
委託費											88,683	0	88,683
記念品費											60,000	0	60,000
衛生費											0	0	0
雑費											40,173	0	40,173
支払負担金											1,160,150	0	1,160,150
日本青年会議所負担金											829,000	0	829,000
国際協力資金											104,025	0	104,025
国際青年会議所負担金											78,375	0	78,375
We Believe購読料											148,750	0	148,750
経常費用計	**626,231**	**3,862,435**	**518,937**	**1,605,293**	**6,612,896**	**249,048**	**78,968**	**49,880**	**963,174**	**1,341,070**	**2,239,970**	**0**	**10,193,936**
評価損益等調整前当期経常増減額	−302,231	91,902	−518,937	479,707	−249,559	−249,048	−78,968	−49,880	1,121,826	743,930	952,735	0	1,447,106
①基本財産評価損益等	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
②特定資産評価損益等	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
③投資有価証券評価損益等	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
評価損益等計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
当期経常増減額	**−302,231**	**91,902**	**−518,937**	**479,707**	**−249,559**	**−249,048**	**−78,968**	**−49,880**	**1,121,826**	**743,930**	**952,735**	**0**	**1,447,106**
①固定資産売却益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
建物売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
車両運搬具売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
什器備品売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土地売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
借地権売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電話加入権売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②固定資産受贈益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
土地受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
①固定資産売却損	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
建物売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
車両運搬具売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
什器備品売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土地売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
借地権売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電話加入権売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②固定資産除却損	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
土地減損損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券減損損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③災害損失	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
災害損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④雑損失	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
雑損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
当期一般正味財産増減額	−302,231	91,902	−518,937	479,707	−249,559	−249,048	−78,968	−49,880	1,121,826	743,930	952,735	0	1,447,106
一般正味財産期首残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**5,730,814**	**0**	**0**	**0**	**0**	**4,250,706**	**9,077,920**	**0**	**19,059,440**
一般正味財産期末残高	**−302,231**	**91,902**	**−518,937**	**479,707**	**5,481,255**	**−249,048**	**−78,968**	**−49,880**	**1,121,826**	**4,994,636**	**10,030,655**	**0**	20,506,546
①受取補助金等	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②受取負担金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③受取寄付金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④固定資産受贈益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
土地受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤基本財産評価益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
基本財産評価益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥特定資産評価益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
特定資産評価益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦基本財産評価損	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
基本財産評価損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧特定資産評価損	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
特定資産評価損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨一般正味財産への振替額	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
指定正味財産期末残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
	−302,231	**91,902**	**−518,937**	**479,707**	**5,481,255**	**−249,048**	**−78,968**	**−49,880**	**1,121,826**	**4,994,636**	**10,030,655**	**0**	**20,506,546**

2016年度 公益社団法人五所川原青年会議所 正味財産増減計算書
2016年1月1日から2016年12月31日まで

（単位　円）

	科目	当年度	前年度	増減	備考
	Ⅰ　一般正味財産増減の部				
	1．経常増減の部				
	（1）経常収益				
	①基本財産運用益	292	501	−209	
	基本財産受取利息	292	501	−209	
	②特定資産運用益	460	407	53	
	特定資産受取利息	460	407	53	
	特定資産受取配当金	0	0	0	
	特定資産受取賃貸料	0	0	0	
	③受取入会金	320,000	300,000	20,000	
	受取入会金	320,000	300,000	20,000	
	④受取会費	6,630,000	6,070,000	560,000	
	正会員会費	5,340,000	5,160,000	180,000	
	特別会員会費	600,000	360,000	240,000	
	賛助会員会費	0	0	0	
	新入会員会費	690,000	550,000	140,000	
	⑤事業収益	4,021,000	4,584,000	−563,000	
	登録料収益	92,000	629,000	−537,000	
	懇親会費収益	0	0	0	
	広告料収益	3,929,000	3,955,000	−26,000	
	販売収益	0	0	0	
	事務局受託収益	0	0	0	
	雑収益	0	0	0	
	⑥受取補助金等	317,200	587,300	−270,100	
	受取国庫補助金	0	0	0	
	受取地方公共団体補助金	232,000	0	232,000	
	受取民間補助金	60,000	87,300	−27,300	
	受取国庫助成金	0	0	0	
	受取地方公共団体助成金	0	500,000	−500,000	
	受取民間助成金	25,200	0	25,200	
	受取補助金等振替額	0	0	0	
	⑦受取負担金	0	0	0	
	受取負担金	0	0	0	
	受取負担金振替額	0	0	0	
	⑧受取寄付金	3,727	15,671	−11,944	
	受取寄付金	3,727	15,671	−11,944	
	募金収益	0	0	0	
	受取寄付金振替額	0	0	0	
	⑨雑収益	348,363	281,589	66,774	
	受取利息	196	258	−62	
	有価証券運用益	0	0	0	
	雑収益	348,167	281,331	66,836	
	経常収益計	11,641,042	11,839,468	−198,426	
	（2）経常費用				
	①事業費	7,953,966	9,815,499	−1,861,533	
	事業費	0	0	0	
1	給料手当	919,126	808,080	111,046	
2	退職給付費用	0	0	0	
3	福利厚生費	55,662	64,846	−9,184	
4	会議費	0	0	0	
5	旅費交通費	205,050	525,890	−320,840	
6	通信運搬費	354,844	333,070	21,774	
7	消耗什器備品費	20,896	21,165	−269	
8	消耗品費	963,824	1,047,023	−83,199	
9	会員支給品費	0	0	0	
10	修繕費	0	0	0	
11	印刷製本費	470,200	628,863	−158,663	
12	減価償却費	0	0	0	
13	燃料費	0	0	0	
14	光熱水料費	89,330	82,690	6,640	
15	賃借料	783,858	780,534	3,324	
16	保険料	242,167	225,318	16,849	
17	諸謝金	244,548	295,294	−50,746	
18	租税公課	12,800	10,000	2,800	
19	渉外費	0	6,000	−6,000	
20	委託費	2,753,742	3,134,969	−381,227	
21	支払寄付金	201,909	639,462	−437,553	
22	衛生費	152,439	211,806	−59,367	
23	雑費	418,571	941,824	−523,253	
24	支払負担金	65,000	58,665	6,335	

	②管理費	2,239,970	2,403,378	−163,408	
1	給料手当	229,782	202,020	27,762	
2	退職給付費用	36,000	36,000	0	
3	福利厚生費	13,915	16,211	−2,296	
4	会議費	0	0	0	
5	旅費交通費	6,600	0	6,600	
6	通信運搬費	55,180	42,362	12,818	
7	消耗什器備品費	10,260	0	10,260	
8	消耗品費	28,263	13,305	14,958	
9	会員支給品費	51,388	38,164	13,224	
10	修繕費	0	0	0	
11	印刷製本費	74,801	104,738	−29,937	
12	減価償却費	21,687	28,916	−7,229	
13	燃料費	0	0	0	
14	光熱水料費	19,082	20,673	−1,591	
15	賃借料	144,238	137,423	6,815	
16	保険料	0	0	0	
17	諸謝金	16,705	0	16,705	
18	租税公課	1,750	1,550	200	
19	渉外費	181,313	378,418	−197,105	
20	委託費	88,683	87,373	1,310	
21	記念品費	60,000	0	60,000	
22	衛生費	0	0	0	
23	雑費	40,173	90,800	−50,627	
24	支払負担金	1,160,150	1,205,425	−45,275	
25	日本青年会議所負担金	829,000	898,500	−69,500	
26	国際協力資金	104,025	100,375	3,650	
27	国際青年会議所負担金	78,375	69,300	9,075	
28	We Believe購読料	148,750	137,250	11,500	
	経常費用計	10,193,936	12,218,877	−2,024,941	
	評価損益等調整前当期経常増減額	1,447,106	−379,409	1,826,515	
	①基本財産評価損益等	0	0	0	
	②特定資産評価損益等	0	0	0	
	③投資有価証券評価損益等	0	0	0	
	評価損益等計	0	0	0	
	当期経常増減額	1,447,106	−379,409	1,826,515	
	2．経常外増減の部		0	0	
	（1）経常外収益				
	①固定資産売却益	0	0	0	
	建物売却益	0	0	0	
	車両運搬具売却益	0	0	0	
	什器備品売却益	0	0	0	
	土地売却益	0	0	0	
	借地権売却益	0	0	0	
	電話加入権売却益	0	0	0	
	②固定資産受贈益	0	0	0	
	土地受贈益	0	0	0	
	投資有価証券受贈益	0	0	0	
	④雑損失	0	1,221,321	−1,221,321	
	雑損失	0	1,221,321	−1,221,321	
	経常外収益計	0	1,221,321	−1,221,321	
	（2）経常外費用		0	0	
	①固定資産売却損	0	0	0	
	建物売却損	0	0	0	
	車両運搬具売却損	0	0	0	
	什器備品売却損	0	0	0	
	土地売却損	0	0	0	
	借地権売却損	0	0	0	
	電話加入権売却損	0	0	0	
	②固定資産除却損	0	0	0	
	土地減損損失	0	0	0	
	投資有価証券減損損失	0	0	0	
	③災害損失	0	0	0	
	災害損失	0	0	0	
	④雑損失	0	1,221,321	−1,221,321	
	雑損失	0	1,221,321	−1,221,321	
	経常外費用計	0	1,221,321	−1,221,321	
	当期経常外増減額	0	0	0	
	他会計振替額			0	
	当期一般正味財産増減額	1,447,106	−379,409	1,826,515	
	一般正味財産期首残高	19,059,440	19,438,849	−379,409	
	一般正味財産期末残高	20,506,546	19,059,440	1,447,106	

Ⅱ　指定正味財産増減の部				
①受取補助金等	**0**	**0**	**0**	
受取国庫補助金	0	0	0	
受取地方公共団体補助金	0	0	0	
受取民間補助金	0	0	0	
受取国庫助成金	0	0	0	
受取地方公共団体助成金	0	0	0	
受取民間助成金	0	0	0	
②受取負担金	0	**0**	**0**	
受取負担金	0	0	0	
③受取寄付金	0	**0**	**0**	
受取寄付金	0	0	0	
④固定資産受贈益	0	**0**	**0**	
土地受贈益	0	0	0	
投資有価証券受贈益	0	0	0	
⑤基本財産評価益	0	**0**	**0**	
基本財産評価益	0	0	0	
⑥特定資産評価益	0	**0**	**0**	
特定資産評価益	0	0	0	
⑦基本財産評価損	0	**0**	**0**	
基本財産評価損	0	0	0	
⑧特定資産評価損	0	**0**	**0**	
特定資産評価損	0	0	0	
⑨一般正味財産への振替額	0	**0**	**0**	
一般正味財産への振替額	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	**0**	**0**	
指定正味財産期末残高	0	**0**	**0**	
Ⅲ　正味財産期末残高	**20,506,546**	**19,059,440**	**0**	

公益社団法人　五所川原青年会議所
2016年度　貸借対照表

2016年12月31日現在

単位(円)

科　　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現　金　預　金	3,769,668	1,884,508	1,885,160
未　収　会　費	0	145,000	△ 145,000
未　収　金	0	500,000	△ 500,000
立　替　金	1,450	15,598	△ 14,148
前　払　金	54,780	0	54,780
流動資産合計	**3,825,898**	**2,545,106**	**1,280,792**
2. 固定資産			
(1)基本財産			
定期積立金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	**3,000,000**	**3,000,000**	**0**
(2)特定資産			
退職給付引当資産	87,008	51,004	36,004
まつり事業準備資金	1,416,428	1,217,091	199,337
事業実施積立金	2,829,660	2,829,341	319
特定資産合計	**4,333,096**	**4,097,436**	**199,656**
その他固定資産			
什器備品	65,062	86,749	△ 21,687
敷金(五所川原商工会議所保証金)	11,000,000	11,000,000	0
その他固定資産合計	**11,065,062**	**11,086,749**	△ 21,687
固定資産合計	**18,398,158**	**18,184,185**	**213,973**
資　産　合　計	**22,224,056**	**20,729,291**	**1,494,765**
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
未払金	192,417	235,047	△ 42,630
前受金	1,380,000	1,320,000	60,000
預り金	58,093	63,804	△ 5,711
流動負債合計	**1,630,510**	**1,618,851**	**11,659**
2. 固定負債			
退職給付引当金	87,000	51,000	36,000
固定負債合計	87,000	51,000	36,000
負債合計	**1,717,510**	**1,669,851**	**47,659**
Ⅲ　正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
2. 一般正味財産	**20,506,546**	**19,059,440**	**1,494,765**
(うち基本財産への充当額)	(3,000,000)	0	(　　0)
(うち特定資産への充当額)		0	**0**
正　味　財　産　合　計	**20,506,546**	**19,059,440**	**1,494,765**
負債および正味財産合計	**22,224,056**	**20,729,291**	**1,494,765**

公益社団法人　五所川原青年会議所
2016年度　貸借対照表内訳表

2016年12月31日現在

単位（円）

科　　目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
Ⅰ　資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	0	0	3,769,668	0	3,769,668
立替金	0	0	1,450	0	1,450
前払金	0	54,780	0	0	54,780
流動資産合計	**0**	**54,780**	**3,771,118**	**0**	**3,825,898**
2. 固定資産					
（1）基本財産					
定期積立金	3,000,000	0	0	0	3,000,000
基本財産合計	**3,000,000**	**0**	**0**	**0**	**3,000,000**
（2）特定資産					
退職給付引当資産	0	0	87,008		87,008
まつり事業準備資金	1,416,428	0	0	0	1,416,428
事業実施積立金	0	0	2,829,660	0	2,829,660
特定資産合計	**1,416,428**	**0**	**2,916,668**	**0**	**4,333,096**
その他固定資産					
什器備品	0	0	65,062	0	65,062
敷金	5,500,000	4,400,000	1,100,000	0	11,000,000
その他固定資産合計	**5,500,000**	**4,400,000**	**1,165,062**	**0**	**11,065,062**
固定資産合計	**9,916,428**	**4,400,000**	**4,081,730**	**0**	**18,398,158**
資　産　合　計	**9,916,428**	**4,454,780**	**7,852,848**	**0**	**22,224,056**
Ⅱ　負債の部					
1. 流動負債					
未払金	57,384	112,079	22,954	0	192,417
前受金	414,000	414,000	552,000	0	1,380,000
預り金	2,047	1,227	54,819	0	58,093
流動負債合計	473,431	527,306	629,773	0	1,630,510
2. 固定負債					
退職給付引当金	0	0	87,000	0	87,000
固定負債合計	0	0	87,000	0	87,000
負債合計	473,431	527,306	716,773	0	1,717,510
Ⅲ　正味財産の部					
1. 指定正味財産	0	0	0	0	0
指定正味財産合計	0	0	0	0	0
（うち特定資産への充当額）	0	0	0	0	0
2. 一般正味財産	9,442,997	3,927,474	7,136,075	0	20,506,546
（うち基本財産への充当額）					
（うち特定資産への充当額）	(1,217,091)		(2,880,345)		(4,097,436)
正　味　財　産　合　計	**9,442,997**	**3,927,474**	**7,136,075**	**0**	**20,506,546**
負債および正味財産合計	**9,916,428**	**4,454,780**	**7,852,848**	**0**	**22,224,056**

公益社団法人　五所川原青年会議所
2016年度　財産目録

2016年12月31日現在

単位（円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
（流動資産）				
	現金	手元保管	運転資金として	¥45,026
	預金	青森銀行　五所川原支店　普通預金　417389	運転資金として	¥2,278,492
		みちのく銀行　五所川原支店　普通預金　1522949	運転資金として	¥834,630
		青い森信用金庫　五所川原支店　普通預金　287063	運転資金として	¥611,520
	立替金	事務局員	年末調整還付金	¥1,450
	前払金	2017総務委員会	新年祝賀会案内	¥54,780
流動資産合計				¥3,825,898
（固定資産）				
1：基本財産				
	定期積立金	青森銀行　五所川原支店　3078293	公益目的保有財産として、運用益を公益目的事業に使用している。	¥3,000,000
2：特定資産				
	退職給付引当資産	青い森信用金庫　五所川原支店　普通預金　455341	退職給付を支払う為の特定預金	¥87,008
		青森銀行　五所川原支店　普通預金　1106610	奥津軽虫と火まつり事業実施の為の資金として保有している。	¥1,416,428
	事業実施積立金	青森銀行　五所川原支店　普通預金　450259	事業実施の為に保有している。	¥2,829,660
3：その他固定資産				
	什器備品	事務局	トランシーバー	¥65,062
	敷金	五所川原商工会議所	五所川原商工会議所保証金 （供用財産）	¥11,000,000
固定資産合計				¥18,398,158
資産合計				¥22,224,056
（流動負債）				
	未払金	五所川原商工会議所	11月・12月電気使用料金	¥15,902
	未払金	五所川原商工会議所	会報新年号広告料	¥5,400
	未払金	ヒラカワ事務器	11月・12月分パフォーマンス料	¥37,505
	未払金	ヒラカワ事務器	12月分事務用品費	¥3,574
	未払金	高橋郁恵	12月分給与(12日～27日)	¥52,388
	未払金	総務委員会	LOM内褒賞、12月定例会	¥77,648
	前受金		2017年度年会費	¥1,380,000
	預り金	高橋郁恵	雇用保険料	¥3,593
	預り金	高橋郁恵	住民税	¥500
	預り金		ブロック大会登録料	¥54,000
流動負債合計				¥1,630,510
（固定負債）				
	退職給付金		退職給付金準備金	¥87,000
固定負債合計				¥87,000
負債合計				¥1,717,510
正味財産				¥20,506,546

附属明細書

法人名:公益社団法人　五所川原青年会議所
事業名:事業全体

1.重要な固定資産の明細

（単位:円）

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	基本財産	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産	退職給付引当資産	51,004	36,004	0	87,008
	まつり事業準備資金	1,217,091	199,339	0	1,416,430
	事業実施積立金	2,829,341	319	0	2,829,660
その他の固定資産	五所川原商工会議所会館保証金	11,000,000	0	0	11,000,000

2.引当金の明細

（単位:円）

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	51,000	36,000	0	0	87,000

＊退職給付引当金については、3000円/月を積み立てている。

財務諸表に対する注記

平成28年1月1日から平成28年12月31日(決算)まで

法人名:公益社団法人　五所川原青年会議所
事業名:事業全体

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針
（1）有価証券の評価基準及び評価方法

該当なし

（2）棚卸資産の評価基準及び評価方法

該当なし

（3）固定資産の減価償却の方法

定率法にて実施している。

（4）引当金の計上基準

退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため内規に基づく要支給額を計上している。

（5）キャッシュフロー計算書における資金範囲

キャッシュフロー計算書は認定法第5条第12号の規定により省略している。

(6)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 会計方針の変更

２011年度より「公益法人会計基準」(平成20年4月11日内閣府公益認定等委員会)を適用してい

4.基本財産及び特定資産の増額及び残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

（単位:円）

科目	前期期末残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
基本財産				
基本財産	3,000,000	－	－	3,000,000
小計	3,000,000	－	－	3,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	51,004	36,004	－	87,008
まつり事業準備資金	1,217,091	199,337	－	1,416,428
事業実施積立金	2,829,341	319	－	2,829,660
小　計	4,097,436	235,660	－	4,333,096
合　計	7,097,436	235,660	－	7,333,096

5.基本財産及び特定資産の財源の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

（単位：円）

科目	当期末残高	（うち指定正味財産から充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
基本財産				
基本財産	3,000,000		－	
小計	3,000,000	－	0	－
特定資産				
退職給付引当資産	87,008		－	
まつり事業準備資金	1,416,428		－	
事業実施積立金	2,829,660		－	
小　計	4,333,096	－	0	－
合　計	7,333,096	－	0	－

6.担保に供している資産

該当なし

7. 固定資産の取得価格、減価償却累計額及び期末残高

固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高は下記のとおりである。

（単位：円）

科目	取得価格	当期首残高	減価償却累計額	当期末残高
什器備品				
トランシーバー	336,000	86,749	21,687	65,062
小　計	336,000	86,749	21,687	65,062
合　計	336,000	86,749	21,687	65,062

8.債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権当期末残高

該当なし

9.保証債務（債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。）等の偶発債務

該当なし

10.満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価格、時価及び評価損益

該当なし

11.補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少高	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
ソフト事業助成金	青森県	500,000	－	500,000	0	
虫と火まつり助成金	五所川原神明宮	0	25,200	25,200	0	
CM大賞出品作品制作費	五所川原市観光協会	0	60,000	60,000	0	
五所川原市市民提案型事業	五所川原市	0	232,000	232,000	0	
合　計		500,000	317,200	317,200	－	

12. 基金及び代替基金の増減及びその残高

該当なし

13. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当なし

14. 関連当時者との取引の内容

該当なし

15. キャッシュフロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金引取

該当なし

16. 重要な後発事象

なし

17. その他

なし

監　査　報　告　書

２０１７年1月３１日
公益社団法人五所川原青年会議所

公益社団法人　五所川原青年会議所
理事長　　今　一憲　　殿

監　事　松野　健　印
監　事　坂本學宇　印

私達は、２０１６年１月１日から２０１６年１２月３１日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告いたします。

1.　監査方法及び概要

（1）会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手段を用いて計算書類の正確性を検討した。

（2）業務監査について、理事会及びその他会議に出席し、理事から業務報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手段を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2．監査意見

（1）収支計算書・正味財産増減計算書・貸借対照表及び財産目録・会計帳簿の金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく表示しているものと認められる。

（2）事業報告内容は真実であると認められる。

（3）理事の職務執行に関する不正行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事項はないと認められる。

以上

２０１６年度庶務報告

《入会者》

高　谷　　怜
川　村　優　弥
森　下　洋　光
境　谷　幸　人
福　士　裕　朗
山　下　高　広
石　田　　潤
神　　康　知
小山内　圭　輔
川　浪　晃　矢
石　川　恭　裕
山　田　恭　嗣
葛　西　翔　悟

《卒業者》

平　川　新　介
佐　藤　昭　義
秋　田　　純
松　橋　康　成
小笠原　崇　文
原　田　美由紀
外　崎　　紳

◇ＪＣ功労賞	平　川　新　介、佐　藤　昭　義、秋　田　　純、松　橋　康　成、小笠原　崇　文、原　田　美由紀、外　崎　　紳
◇定例皆勤賞	秋　田　　純、下川原　伸　彦
◇新人賞	小　野　顕　成
◇ＳＵＰＰＯＲＴ賞	田　中　宏　明
◇ JAYCEE OF THE YEAR2016	對　馬　央　也
◇委員会 OF THE YEAR2016	青少年委員会

事務局備品目録

1.	事務用机	7個	23.	傘立て	1台
2.	事務用椅子	3個	24.	テーブルワゴン	1台
3.	スチール書庫	2個	25.	会員名簿掲示板	1式
4.	スチール引き出し	4個	26.	アタッシュケース	1個
5.	キャビネット	2個	27.	プロジェクター	1台
6.	ホワイトボード	1台	28.	スクリーン	1台
7.	ＪＣゴング	2個	29.	電子レンジ	1台
8.	ＪＣ名札入れ	1台	30.	裁断機	1台
9.	ＪＣ旗	1旗	31.	プリンター	1台
10.	応接椅子	6個	32.	スキャナー	1台
11.	書類ケース	9個	33.	クーラーボックス	1個
12.	ボイスレコーダー	1台	34.	傘	27本
13.	食器棚	1個	35.	ハロゲンヒーター	1台
14.	冷蔵庫	1台	36.	ランタン	1個
15.	金庫	1台	37.	ＣＤプレーヤー	1台
16.	時計	1台	38.	プレジデンシャルリース	1個
17.	鉛筆削り	1個	39.	ＪＣＩ遠台看板	1台
18.	電子計算機	2台	40.	トランシーバー	7組
19.	印鑑	1式	41.	国旗大	1旗
20.	スチームアイロン	1個	40.	国旗小	1旗
21.	電話機	1台	42.	会議用テーブル	1台
22.	パソコン	1台	43.	会議用椅子	10台

月　日	行　　事	場　　所
１月		
4 日	第１回理事会（19 時～）	４階会議室
6 日	新年祝賀会リハ（19 時～）	プラザマリュウ五所川原
9 日	新年祝賀会（14 時～リハ・18 時～祝賀会）	
13 日	月次巡回監査（14 時～）	事務局
15 日	財務管理委員会（18：30 ～）	事務局
19 日	会員委員会（19 時～）	事務局
20 日	第２回三役会（19 時～）	事務局
26 日	基金管理委員会（19 時～）	事務局
29 日	地域委員会（19 時～）	事務局
２月		
2 日	青少年委員会 (19 時～)	事務局
3 日	会員委員会（19 時～）	事務局
5 日	⑮第 15 回理事会（18 時～）/ 第 2 回理事会（19 時～）	４階会議室
9 日	月次巡回監査（13：30 ～）	事務局
10 日	まつり委員会（19 時～事務局）／会員委員会（19 時～）	事務局
15 日	支払日 / 財務管理委員会（19 時～事務局）	事務局
18 日	第３回三役会（19 時～事務局）	事務局
19 日	総務委員会（19 時～事務局）/ まつり委員会（19 時～）	事務局
23 日	ブロック大会実行委員会（19 時～）	学習情報センター
25 日	会員委員会（19 時～）	事務局
26 日	らぶごしょ総会＆第１回実行委員会（19 時～）	学習情報センター
29 日	通常総会（19 時～）	ホテルサンルート五所川原
３月		
4 日	第３回理事会（19 時～）	第２研修室
8 日	まつり委員会（19 時～）	事務局
10 日	月次巡回監査（13 時～）	事務局
11 日	地域委員会（19 時～）	事務局
14 日	会員委員会（19 時～）	事務局
15 日	支払日 / 財務管理委員会（19 時～）	事務局

月　日	行　　事	場　　所
17 日	３月定例会（18：45 ～）	学習情報センター
18 日	第４回三役会（19時～）	事務局
22 日	新入会セミナー（19 時～）	養老の瀧
30 日	会員委員会（19 時～）	事務局
４月		
5 日	第４回理事会（19 時～）	４階会議室
7 日	地域委員会（19 時～）	事務局
11 日	総務委員会（19 時～）	事務局
12 日	ブロック大会部会長会議／まつり部会長会議（19 時～）	事務局
13 日	青少年委員会（19 時～）	事務局
14 日	財務管理委員会／まつり委員会（19 時～）	事務局
15 日	支払日／ブロ大会ＰＲ	十和田
20 日	第５回三役会（19 時～）	事務局
21 日	ブロ大会ＰＲ／大懇親会部会（20：30 ～）	黒石／事務局
22 日	異業種交流会（19 時～）／月次巡回監査（14：30 ～）	イズミボウル
23 日	まつり委員会（19 時～）	事務局
24 日	４月定例会	
25 日	第２回らぶごしょ実行委員会（19 時～）	公民館
27 日	ブロ大会ＰＲ／青少年委員会（19 時～）	三沢／事務局
28 日	まつり作業はじめ（9時～）／事始祭＆第１回実行委員会（18 時～）	神明宮
29 日	親善大使１（18：30 ～）	学習情報センター
５月		
1 日	わんぱく相撲津軽地区大会	青森県武道館
2 日	市民討議会設立総会（11 時～）	事務局
5 日	ブロ大会ＰＲ	青森
6 日	第５回理事会（19 時～）	４階会議室
9 日	ブロ大会ＰＲ／まつり BBQ（19 時～）	弘前／山板倉庫
10 日	第２回ブロ実行委員会（19 時～）	学習情報センター
16 日	支払日／月次巡回監査（13 時～）	
18 日	ブロ大会ＰＲ／財務管理委員会（19 時～）	八戸／事務局

月　日	行　　事	場　　所
19 日	５月定例会（19 時～）	学習情報センター
20 日	第６回三役会／第２回臨時理事会	事務局
21 日	ブロ大会ＰＲ	むつ
25 日	新入会員交流会（18 時～）	製作小屋
26 日	OB 交流会（19 時～）	五所川原温泉
27 日	まつり第２回実行委員会	神明宮
31 日	大懇親会部会（20 時～）	事務局
６月		
６日	財務管理委員会（19 時～）	事務局
７日	第６回理事会	
９日	河原部会／青少年委員会（19 時～）	事務局
10 日	まつり参加者説明会	
13 日	月次巡回監査（13 時～）／まつり会員向け説明会（19 時～公民館）	事務局
14 日	ブロック大懇親会部会（18 時～館）／まつり参加者部会（19 時～）	事務局
15 日	支払日	
18 日	奥津軽虫と火まつり	
22 日	第７回三役会	
23 日	地域委員会（19 時～）	事務局
24 日	総務委員会（19 時～）	事務局
27 日	青少年委員会（19 時～）	事務局
28 日	第３回ブロ実行委（19 時～）	学習情報センター
７月		
１日	第３回臨時理事会	
２日	ブロック大会 in 奥津軽五所川原（～３日）	
６日	第７回理事会	
９日	地域委員会	
11 日	月次巡回監査（14 時～）／青少年委員会／総務委員会	事務局
12 日	地域委員会（19 時～）	事務局
14 日	７月定例会（18：45 ～）	学習情報センター
20 日	財務管理委員会（19 時～）	事務局

月　日	行　　事	場　　所
21 日	市民討議会シミュレーション（18 時～）	学習情報センター
23 日	市民討議会（14 時～）	学習情報センター
25 日	第８回三役会	
８月		
1 日	第８回理事会（19 時～）	４階会議室
9 日	月次巡回監査（11 時～）	事務局
10 日	新入会員セミナー（19 時～）／クエスト事業説明会	養老乃瀧
16 日	支払日	
17 日	８月定例会ごしょりんクエスト（～ 18 日）	
22 日	財務管理委員会	
24 日	まつり第３回実行委員会（19 時～）	一心亭
25 日	第９回三役会	
26 日	地域委員会（19 時～）	事務局
28 日		
29 日	総務委員会	事務局
９月		
1 日	第９回理事会	
6 日	青少年委員会（19 時～）	事務局
8 日	地域委員会（11：30 ～）	事務局
14 日	第４回臨時理事会	
15 日	支払日 / 財務管理委員会（19 時～）	事務局
16 日	月次巡回監査（10 時～）	事務局
20 日	新竹来訪（～ 22 日）	
23 日	第 10 回三役会	
26 日	総務委員会	
29 日	9 月通常総会（18：45 ～）	ホテルサンルート五所川原
10 月		
3 日	第１回予定者理事会（19 時～）	４階会議室
4 日	南小生インタビュー（14 時～）	事務局

月　日	行　　事	場　　所
5日	第10回理事会（19時～）	４階会議室
11日	地域委員会（19時～）	事務局
12日	月次巡回監査（13時～）／かまりっこ打合せ（19時～）	事務局
13日	総務委員会（19時～）	事務局
16日	市民討議会実行事業（軽トラ市）	
17日	支払日 / 第２回予定者理事会（19時～）	４階会議室
20日	第11回三役会	
24日	立入検査／ 10月定例会（17時～）	公民館
25日	委員長セミナー（19時～）	事務局
31日	わんぱく祝勝会（19時～ちゃんこ）	
11月		
1日	第３回予定者理事会	
2日	第11回理事会	
10日	月次巡回監査（10時～）	事務局
11日	地域委員会（19時～）	事務局
13日	11月定例会	中央公民館
15日	支払日	事務局
29日	第５回予定者理事会	
12月		
5日	第12回理事会 / 第１回予定者臨時理事会	
9日	月次巡回監査（10時～）	事務局
13日	第６回予定者理事会	
15日	支払日	
16日	悠々会（19時～ティップオフ）／総務委員会（19時～）	事務局
17日	シニアクラブ顔合わせ（19時～）	五所川原温泉
18日	12月定例会	
26日	決算理事会（18時～４階会議室）/ 第２回予定者臨時理事会	
27日	御用納め（９時～）	事務局
28日	第１回三役会（19時～）	事務局

新入会員のために（新入会員の心得）

（1）会員の心得

1．充実したＪＣライフをおくる為に、ＪＣをよく理解しなければならない。
2．常に自分の考えをわかり易く表現することができなければならない。
3．常に若さと活気に溢れ、笑顔を忘れてはならない。
4．会員としての責任感を持ち、積極的に参加しなければならない。
5．進んで難しい仕事に当たり、責任をもって完成させなければならない。
6．議事法ほか会議の進め方をマスターしなければならない。
7．完全な議事録を作成できなければならない。
8．会議の議長を務めることができなければならない。
9．与えられた時間で自分の意見をまとめ、発表できなければならない。

（2）会員の心構え

1．常に高い目標を持ち、その目標に向かつて努力しなければならない。
2．自分自身を知り、向上させなければならない。
3．目的に向かつて計画的に自己を管理しなければならない。
4．特に自分自身の健康管理をしなければならない。
5．確固たる信念と強し、意志のもとに、目標に向かつて直ちに行動を開始すること。
6．一日一度は自分を見直すこと。
7．地域構成員の一人として、地域社会の活
8．正しいＪＣ運動を地域社会に広めなければならない。

（3）ＪＣ会員としてのマナー

一人ひとりの言動や行動が多くの会員あるいは組織の品位を傷つけることに繋がることから、会員としてのマナーを厳守しなければならない。

1．品格ある青年として行動する。
2．常に礼儀正しい服装をし、必ずバッジをつける。
3．常に他人に対し、不快の念を与える言動を慎む。
4．常に他人の話をよく聞く、その権利を尊重する。
5．諸通知の出欠は、すみやかに必ず返信を出す。なお、出欠の変更又は遅刻の場合は、必ず事前に事務局まで連絡する。
6．諸会合には定刻に出席し、時間の無駄使いをしない。
7．発言する時は、挙手をして上衣のボタンをかけ、所属及び氏名を明確に述べる。
8．諸会合では、私語・雑談を慎む。
9．先輩には敬意を示し、挨拶をすると同時に名刺を交換する。
10．会員同志の付合いには、相手の人格を損なわないように敬意を示し、笑顔で握手する。